



第2次 つくば市 スポーツ推進計画

令和6年（2024年）3月

〔対象期間〕

令和6年度（2024年度）から
令和15年度（2033年度）まで

これからの
やさしさの
ものさし
つくばSDGs

はじめに

スポーツに親しみ、楽しむことは、体を動かすことによる爽快感だけでなく、心身の健全な発達や、健康・体力の維持増進、人と人との交流、地域の活力など、様々な効果をもたらすと言われていています。本市においても、市のスポーツ事業や関連事業を総合的・体系的に位置付けた「つくば市スポーツ推進計画」を平成25年（2013年）に策定し、様々な観点からスポーツで“つながる”まちの推進に取り組んできました。

令和2年（2020年）以降、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、活動の自粛・制限が長期化したことで、スポーツの世界も大きな影響を受けました。現在は、コロナ以前の規模で各種事業を開催しつつありますが、一方で、日々の生活環境や、社会のあり方そのものが大きく変化しました。このような中でスポーツは、心身の健康の維持・増進を図るだけではなく、人と人、地域と地域の交流を促進し、希薄化した人間関係を活性化することができるものとして、その価値が再認識されたのではないのでしょうか。

今回、新たに策定した「第2次つくば市スポーツ推進計画」では、これまでの計画の基本理念である「スポーツで“つながる”まち つくば」をすべての市民が共有する普遍的なものととらえ、引き継ぐことにしました。そして「スポーツで“つながる”まち つくば」を実現するため、「する」、「みる」、「ささえる」に、新たな視点「しる」を加えた4つの視点によるスポーツ活動を通じて、すべての市民が、スポーツを楽しむことで、生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフが送れるよう、地域にあったスポーツ文化を創造し、多様な主体の連携・協働により、市民が「つながり」、「交流」するつくば市らしいスポーツ環境を目指します。

最後に、本計画の策定にあたり、多大なる御尽力を賜りましたつくば市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、御意見や御提言をいただきました関係団体や市民の皆様にご心から感謝を申し上げます。



令和6年（2024年）3月

つくば市長 

目次

第1章	第2次つくば市スポーツ推進計画について	1
1-1	計画策定に係る基本的考え方	2
1-2	スポーツの意義と役割	3
1-3	計画策定の目的	3
1-4	計画の位置づけ	4
1-5	計画の構成と期間	4
第2章	スポーツを取り巻く現状と課題	5
2-1	スポーツを取り巻く社会情勢の変化	6
2-2	つくば市の取組の実績と評価	10
2-3	スポーツを取り巻く現状	19
2-4	課題の整理	28
第3章	計画の基本的な考え方	31
3-1	基本理念	32
3-2	基本目標（基本目標、基本戦略、成果指標）	33
第4章	スポーツ推進に向けた取組	39
4-1	施策の体系	40
4-2	施策	42
4-3	3つの重点取組	55
第5章	計画の進行管理	59
5-1	計画の実施体制と進行管理	60
資料編		61
	計画の策定経緯	62
	つくば市スポーツ推進審議会委員名簿	64
	用語集	65
	団体・法人等の名称の記載について	68

第1章

第2次つくば市スポーツ推進計画について

第1章 第2次つくば市スポーツ推進計画について

1-1 計画策定に係る基本的考え方

本計画の策定においては、以下のような考え方で計画づくりを推進します。

- ◆「第3期スポーツ基本計画」を参酌するとともに、つくば市の上位・関連計画と整合する計画を策定します。

- ・国の「第3期スポーツ基本計画」の考え方を参酌し、計画が掲げる新たな視点を盛り込む
- ・つくば市の最上位計画である「つくば市未来構想」及び「つくば市戦略プラン」との整合を図る
- ・教育や健康づくりをはじめ、関連する部門別計画との整合・連携を図る

- ◆社会情勢の変化に的確に対応した計画を目指します。

- ・広域的な地域間格差の広がりや人口構成の変化などつくば市を取り巻く現在の課題に対応する
- ・「働き方」や「生活様式」等ライフスタイルの変化に対応する
- ・スポーツの力を活用した持続可能な社会や共生社会の実現に向けた取組を盛り込む
- ・ダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（受容・包括）の取組を盛り込む

- ◆つくば市の地域特性をいかし、市民ニーズ・利用者ニーズに応える計画を目指します。

- ・つくば市の基礎データを整理・分析し、地域特性・地域課題を明確にする
- ・アンケート調査、グループミーティング結果を分析し、市民ニーズ・利用者ニーズを明確にする
- ・各種調査の結果から、つくば市の強み・弱みを分析し、重点的に取り組むべき事項を反映する

- ◆計画の連続性と進捗状況の評価・検証に基づく計画を目指します。

- ・これまで10年間推進してきた「つくば市スポーツ推進計画」の考え方と方向性を継承する
- ・計画の達成状況及び進捗状況を評価・検証し、計画推進上の課題を明確にする
- ・EBPM（Evidence-Based Policy Making／エビデンスに基づく政策立案）に留意する
- ・より効果的な数値目標の考え方、政策・施策の効果を示す指標の考え方を整理する

1-2 スポーツの意義と役割

1 スポーツの意義

「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」と「スポーツ基本法」の冒頭にあるように、「スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つ」です。人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、大きな意義が有ります。

2 スポーツの価値

国の「第3期スポーツ基本計画」においては、スポーツの捉え方として、『「スポーツ」は『する』『みる』『ささえる』という様々な形での『自発的な』参画を通して、『楽しさ』や『喜び』を感じることに本質を持つもの』としています。

また、このような楽しさや喜びは、人々の生活や心をより豊かにする「Well-being」の考え方にもつながるものとしており、つくば市においても、こうした「スポーツの価値」を原点として大切にし、市民が生涯を通じてスポーツを実践できる環境を整えていくことが必要と考えられます。

さらに、「スポーツそのものが有する価値」を基本としつつ、スポーツを通じた「地域社会の再生」や「健康で活力に満ちた長寿社会の実現」など、「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」もまた、重要な観点です。

3 本計画におけるスポーツの範囲

本計画で示すスポーツとは、野球、サッカー等の競技スポーツに加え、ウォーキングやランニング、体操・ストレッチ・筋力トレーニング、登山や散歩等の健康や美容、余暇を目的に行う身体活動のほか、通勤時などエレベーターを使わずに階段移動をすることなど、意識して行う様々な身体活動のことを指します。

1-3 計画策定の目的

つくば市では、平成26年（2014年）3月に「つくば市スポーツ推進計画」を策定し、「スポーツで“つながる”まち つくば」を基本理念に掲げ、スポーツに関する施策を総合的に推進してきました。

また、平成31年（2019年）2月には、計画策定から5年目の中間見直しとして、国のスポーツ施策の取組や社会情勢の変化に対応した「中間年度見直し版」の「つくば市スポーツ推進計画（～令和5年度（2023年度））」を策定しています。

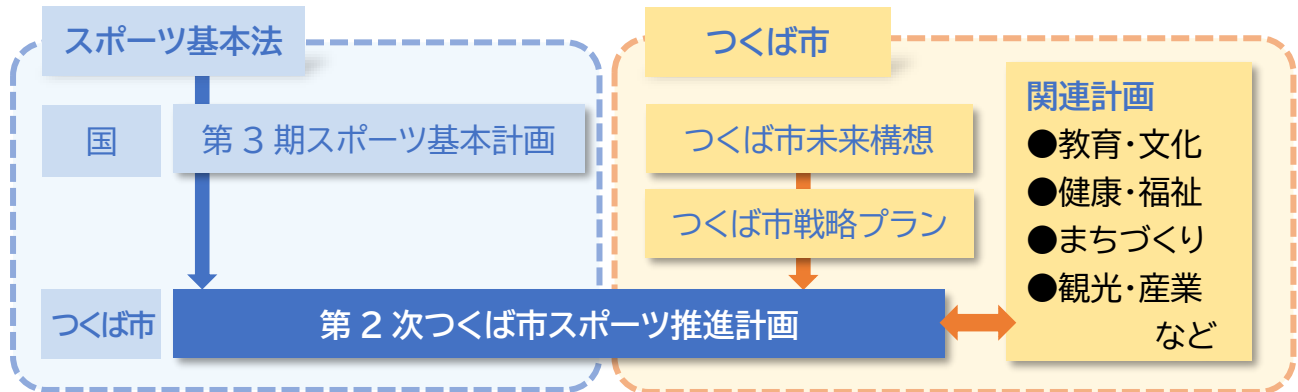
この間、令和元年（2019年）には、茨城県において「いきいき茨城ゆめ国体」（第74回国民体育大会）が開催され、つくば市では「自転車（ロード）」「アーチェリー」が開催されました。また、令和3年（2021年）には、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催され、つくば市ではスイス選手団の事前合宿を受け入れるなど、様々な取組を行ってきました。

この度、「つくば市スポーツ推進計画」の計画期間が終了することから、新たにつくば市のスポーツに関する施策の基本となる事項を定め、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため「第2次つくば市スポーツ推進計画」を策定するものとします。

1-4 計画の位置づけ

本計画は、「スポーツ基本法」第 10 条に規定される「地方スポーツ推進計画」として、つくば市の実情に即したスポーツの推進に関する計画を策定するものです。策定にあたっては、国（スポーツ庁）が定める「第 3 期スポーツ基本計画」を参酌するとともに、つくば市の最上位計画である「つくば市未来構想」及び「つくば市戦略プラン」、その他、関係する計画との整合を図り策定します。

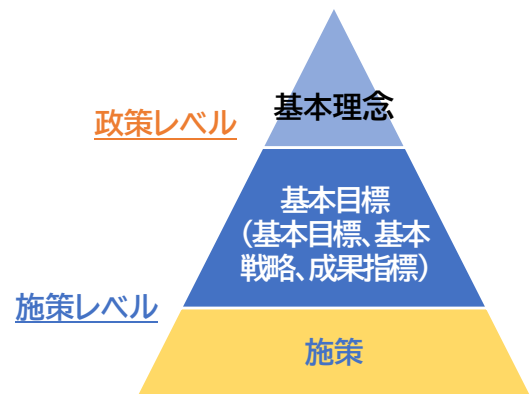
審議機関は「つくば市スポーツ推進審議会」として、「市民意向」を十分反映しながら進めていくものとします。



1-5 計画の構成と期間

1 計画の構成

本計画の構成は「政策レベル」で 10 年間の効力をもつ「基本理念」、「基本目標（基本目標、基本戦略、成果指標）」と、「施策レベル」で 5 年間の計画期間として推進する具体的な「施策」によるものとします。



2 計画の期間

本計画の期間は令和 6 年度（2024 年度）から令和 15 年度（2033 年度）までの 10 年間とします。「基本理念」、「基本目標」については、長期的な視点をもって、令和 6 年度（2024 年度）から令和 15 年度（2033 年度）までの 10 年間を通して効力をもつものとし、具体的な「施策」については令和 6 年度（2024 年度）から令和 10 年度（2028 年度）までの 5 年間で計画的に取り組むものとします。

	R 6 年度 (2024)	R 7 年度 (2025)	R 8 年度 (2026)	R 9 年度 (2027)	R 10 年度 (2028)	R 11 年度 (2029)	R 12 年度 (2030)	R 13 年度 (2031)	R 14 年度 (2032)	R 15 年度 (2033)	R 16 年度～ (2034～)
第 2 次つくば市 スポーツ推進計画	基本理念、基本目標など										第 3 次
	5 年間で取り組む施策【前期】					5 年間で取り組む施策【後期】					
つくば市未来構想	→										
第 2 期戦略プラン	→										

第2章

スポーツを取り巻く現状と課題

第2章 スポーツを取り巻く現状と課題

2-1 スポーツを取り巻く社会情勢の変化

1 社会情勢の変化とスポーツとの関係

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響

令和2年(2020年)から感染拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、中長期にわたり感染症対策が講じられた中で、活動制限による運動不足から身体的及び精神的な健康を脅かす健康二次被害や、子どもの健全な発育・発達への影響、テレワークの推進に伴う身体活動量の低下のほか、特に中高年齢者については体力・生活機能の低下をきたすリスクが高まりました。令和5年(2023年)5月からは5類感染症に移行したことにより、制限等が緩和され、フレイル予防や健康増進、生きがいづくりの面などから、特に健康リスクが高まった高齢者のスポーツ活動の促進が期待されます。日常の中でスポーツ活動を再開し、すべての世代がスポーツに親しむことが求められています。

(2) 子どもの体力低下

全国的に児童生徒の運動時間が減少し、運動をする・しない子どもの二極化が続いている中、「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、新型コロナウイルス感染症の影響により児童、生徒ともに体力レベルの低下傾向が進む状況が明らかになりました。子どもの運動時間の減少や学習以外のスクリーンタイムの増加、肥満の子どもの増加などに加え、学校活動の制限により体力向上の取組が減少したことが要因とされています。スポーツが好きな子どもを増加させ、生涯にわたりスポーツを継続し、健康で幸福な生活を営む資質や能力の育成が求められています。

(3) スポーツへの多様なかかわり方

学習指導要領の体育科・保健体育科(平成29年(2017年)・平成30年(2018年)改訂)において、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現するために重要な視点として、「する・みる・支える」に「知る」を加えた4つの視点があげられており、するだけではなく、見たり教え合ったり、応援し合ったり、技能や知識、情報を知ること、楽しさや喜びを味わうなど、スポーツへの多様なかかわり方があるとされています。また、「する・みる・支える・知る」はそれぞれ独立するものでなく、「する」、「みる」、「支える」ためにはスポーツ文化を知ることが大切であり、実際に知る、見ることで、するきっかけにつながるなど相互にかかわりあっています。この視点は学校体育のみならず、生涯スポーツ全般に必要な観点であり、個人の特性に応じた多様なかかわり方でスポーツを楽しむことが重要です。

(4) デジタル技術革新の進展

ICT、AI(人工知能)、VRなどの技術開発が急速に進展しています。これらの技術は、新しい産業の創出・発展のみならず、人々の働き方やライフスタイル、健康管理、教育など、市民の生活にかかわるあらゆる分野での活用が期待されています。スポーツ分野においても、トレーニング動画のオンライン配信やVRを活用した新たなスポーツなど、多様な楽しみ方が展開されるものと考えられます。また、eスポーツは国や茨城県において、経済産業の側面等から大きな期待が寄せられており、今後高齢者や障害者を対象とし

た施策の展開など、多様な可能性が出てくる中で、活用方針について考えていくことが求められています。

(5) 共生社会の実現

令和3年(2021年)には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。本競技大会では、障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、だれもがいきいきとした人生を享受することのできる共生社会を実現することを目指し、心のバリアフリーやユニバーサルデザインの普及など、様々な取組が実施されました。また、本競技大会を契機とした取組とレガシー(遺産)の継承が求められています。

さらに、スポーツ庁においてはだれもが気軽にスポーツを行えるよう、身近な施設のユニバーサルデザイン化を推進する「誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業(スポーツ施設におけるユニバーサルデザイン化等推進事業)」を進めており、令和5年(2023年)3月には配慮事項や実践手法をとりまとめたガイドブックが作成されました。

(6) 学校部活動の地域移行に向けた取組

少子化の加速や過度な練習による疲弊、指導時間等の教員への負担が全国的に問題視される中、スポーツ庁及び文化庁は令和4年(2022年)12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応についての考え方を示しました。生徒数が減少し、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒のスポーツ・文化芸術活動の場として整備することが求められています。また、指導者の質など部活動にとどまらない新たな問題を提起しており、地域の実情に応じた解決が求められています。

(7) スポーツビジネスの成長

スポーツは産業の一面を有し、海外においては既に巨大産業となっています。スポーツ庁では、スポーツ市場の規模拡大に向け、まちづくりや地域活性化にもつながるスポーツ施設の整備推進、スポーツ分野と他産業との連携による新事業創出と地域社会の課題の解決を目的とした取組を推進しています。スポーツビジネスの発展により、スポーツ産業の活性化や市場の拡大を目指し、それらの収益をスポーツ環境の改善に還元することで、スポーツ参画人口の拡大につながるといった好循環を自律的に拡大していくことが期待されています。

(8) SDGs(持続可能な開発目標)への貢献

平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択された国際目標であるSDGs(持続可能な開発目標)は、「2030年までに持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲット」から構成され、「誰一人取り残さない」ことを誓っています。スポーツ分野においても、リサイクル素材によるスポーツウェアの生産、プロチーム等による環境対策とスポーツのイベント、だれでも参加できるスポーツ交流会、マイボトルの推進などの取組が進んでおり、スポーツの多様な力を活用してSDGs達成に貢献していくことが期待されています。

2 国におけるスポーツ施策の動向

(1) 第3期スポーツ基本計画の策定

令和4年(2022年)3月に策定された「第3期スポーツ基本計画」は、令和4年度(2022年度)から令和8年度(2026年度)までの5年間で国等が取り組むべき施策や目標等を定めており、第2期計画において掲げた中長期的な4つの基本方針は今後も踏襲しつつ、スポーツを取り巻く環境や社会状況の遷移を踏まえ、「3つの新たな視点」を挙げています。

今後5年間に取り組む施策として、第3期からは新しくDXの推進、安全・安心の確保などの施策が強化されており、また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした国際交流・協力や、共生社会の実現等の施策の強化などが示されています。

(2) スポーツ庁の創設

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの開催決定によるスポーツに対する機運の高まりや、スポーツによる健康寿命延伸の可能性など、社会の活性化にスポーツを活用する必要性が高まる中で、スポーツ施策を総合的に推進するため、平成27年(2015年)10月1日に文部科学省の外局としてスポーツ庁が発足しました。

スポーツ庁では「スポーツ基本法」の理念を実現するために、国際競技力の向上、スポーツを通じた健康増進、地域・経済の活性化、国際交流・協力、障害者スポーツの振興、学校体育の充実など、関係省庁や企業と連携しながらスポーツ行政を総合的・一体的に推進しています。

(3) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

昭和39年(1964年)開催の東京オリンピック競技大会は、戦後の日本の復興を世界に示す象徴的な大会となりましたが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、大会史上初の延期開催、大会参加者の感染症対策の徹底、無観客試合の導入など、スポーツとウィズコロナを象徴する大会となりました。

東京2020オリンピック競技大会は33競技・339種目205か国、東京2020パラリンピック競技大会は22競技・539種目161か国、それぞれ過去最多の選手の参加となり、我が国からも過去最多の選手が参加し、メダル数や入賞者数が大幅増となるなど優秀な成績を収めました。本競技大会を通してスポーツの価値や素晴らしさがより一層認識され、スポーツに対する機運が高まりました。

3 茨城県におけるスポーツ施策の動向

(1) 第2次茨城県総合計画で示すスポーツ施策

茨城県においては、令和4年(2022年)3月に「第2次茨城県総合計画～『新しい茨城』への挑戦～」を策定しています。令和4年度(2022年度)～令和7年度(2025年度)における県政運営の基本方針となるもので、スポーツについては、「基本計画3 新しい人材育成 学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ茨城」において、「スポーツの振興と遊びのある生活スタイル」が施策として位置づけられています。

4年間の主な取組としては、ジュニア世代に重点を置いた選手の発掘・育成・強化や「みる」スポーツへの県民の参加の促進、指導者の資質向上や総合型地域スポーツクラブ等の活性化の支援、都市公園の魅力向上、フード、音楽、スポーツ、アウトドアなど地域資源をいかした取組等が示されています。

(2) 世界へ羽ばたくトップアスリート育成事業

令和元年(2019年)に開催された茨城国体を契機とした選手強化及びスポーツ文化の醸成を継続させるため、令和2年(2020年)から茨城県及び茨城県スポーツ協会主催で「世界へ羽ばたくトップアスリート育成事業」を実施しています。国内外で活躍するトップアスリート輩出を目指し、①ジュニアアスリートの発掘・育成、②指導者の確保・活用、③トップアスリート育成モデル(育成システム)を進めています。①ジュニアアスリートの発掘・育成では、各地で実施するスポーツ能力測定会(小学4年生を対象)で、運動能力の高い子どもを発掘するとともに、育成面では各種競技の体験教室や練習会、県内のプロチームや大学、各種団体と連携した講座を実施しています。②指導者の確保・活用としては、指導者のための練習会や講習会等へ優秀な講師を招へいするなど、指導者の養成を図るとともに、指導者資格取得研修への派遣や、指導者養成講習会を実施しています。③トップアスリート育成モデル事業としては、県内にプロチームがあるサッカーとバスケットボールの2競技をモデルケースとし、ジュニア選手を年齢別に選抜し、プロチームや大学等と連携しながら、一貫した指導体制のもと選手の育成・強化を図っています。

(3) いばらきサイクルツーリズム構想

つくば霞ヶ浦りんりんロードは、霞ヶ浦や筑波山地域の風光明媚な自然風景、鹿島神宮などの歴史・文化的資産等を楽しめる全長約180kmの茨城県が整備したサイクリングロードです。令和元年(2019年)に国指定のナショナルサイクルルートに指定され、スポーツ(サイクル)ツーリズムの観点からも活用が推進されており、茨城県とつくば霞ヶ浦りんりんロード沿線7市が連携した広域レンタサイクルの実施、サイクルサポートステーションの設置、各種イベントを実施しています。

また、日本一のサイクリング環境を目指して「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の他、茨城県全域に「奥久慈里山ヒルクライムルート」、「大洗・ひたち海浜シーサイドルート」、「鬼怒・小貝リバーサイドルート(仮称・整備中)」などの多様なモデルルートを設定し、国内外からのサイクリストが「安心して」、「何度も」、「楽しめる」いばらきサイクルツーリズム構想を推進しています。

2-2 つくば市の取組の実績と評価

「つくば市スポーツ推進計画」では、「スポーツで“つながる”まち つくば」を基本理念として、4つの基本戦略に基づき各種施策を進めてきました。つくば市の取組の実績と評価は次のとおりです。

1 基本戦略1. ライフステージに応じたスポーツ活動の促進

施策の対象を「子ども」、「高齢者」、「障害者」、「成人」の4つの主体に分けて、ライフステージに応じたスポーツ活動の促進を図りました。

仕事・家事・育児が忙しい世代（30代、40代）のスポーツ実施率の向上、障害者のスポーツの推進に関する施策・取組の満足度や認知度の向上、県内で低い状況にある子どもの体力の向上などを主な課題として、つくば市スポーツ協会との連携による各種スポーツ大会の開催、ニュースポーツや障害者スポーツなど各種スポーツの体験イベント、各世代に合わせたスポーツ教室、身近な施設としての学校体育施設の開放などに取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大はスポーツにとっても大きな障壁となりましたが、一方で社会にデジタル技術の急速な普及を促しました。こうした中、第41回つくばマラソン（令和3年（2021年））では、いち早くデジタル技術を取り入れ、アプリを活用したオンライン大会として実施しました。

これら実施した施策は目標どおりの進捗、実績を得た取組も多く、一定の達成度が認められます。特に、高齢者のスポーツでは多くの軽運動教室やウォーキングイベントなどが頻繁に開催され、充実した内容となりました。これには、保健・福祉部門との連携や、高齢者の健康意識の高まりが起因していると考えられます。また、学校部活動改革の取組についても、受け皿となる地域活動、運営組織など地域の力に支えられ、全国の先進モデルとして注目されています。

しかしながら、スポーツ実施率、障害者スポーツの認知度は目標に届きませんでした。女性を対象にした施策の充実により女性のスポーツ実施率は上昇しましたが、裾野の拡大には至らずスポーツ未実施率も増加しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会が制限されたことにより、子どもの体力が著しく低下しました。さらに、スポーツ関連情報の入手については、依然としてアクセスしにくいといった声がきかれ、市民への情報共有の難しさが伺えます。アンケート結果からも、半数以上が市広報紙である「広報つくば」をスポーツ関連情報の情報源としており、デジタル技術の普及が加速する中、SNSからの入手は1割にも満たない状況で、即時性、手軽さなどの効果をいかしきれませんでした。



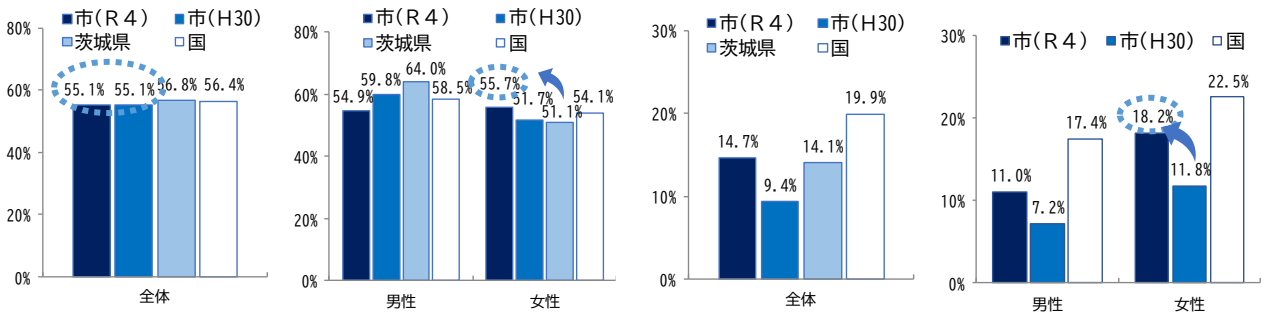
●トレイルラン教室



●子どものスポーツ体験教室

取組結果

■週1回以上のスポーツ実施率（18歳以上） ■スポーツ未実施率（18歳以上）

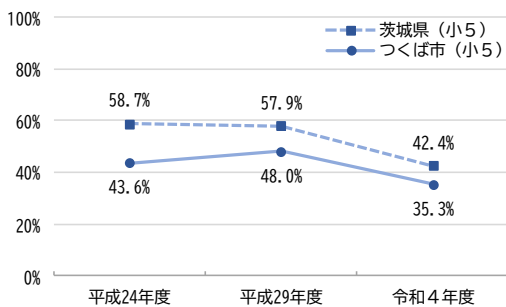


▶ 全体の実施率は変わらず 女性の実施率が増加しているものの、未実施率も大きく増加

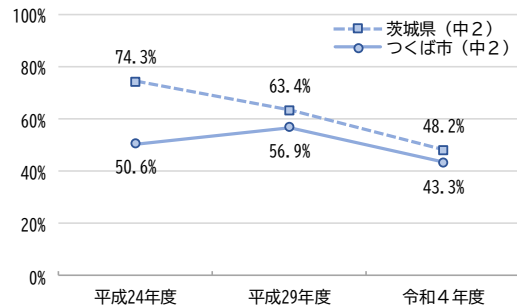
出所：平成30年（2018年）及び令和4年（2022年）「つくば市スポーツ活動に関する調査（成人）」
 （国）「令和3年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」
 （茨城県）令和5年（2023年）「いばらきネットモニター スポーツ情報 Web サイトの開設に係るアンケート」結果
 （※茨城県は男性・女性の未実施率の数値は未公表）

■小学校・中学校の新体力テスト総合評価（A+Bの児童生徒割合の推移）

（児童）



（生徒）



▶ 児童生徒の体力については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて低下

出所：健康教育課

■高齢者スポーツに関する事業（開催教室）

教室名	実施	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
いきいき運動教室※ (65～74歳)	実施回数(回)	※ 210	129	129	77	96	129
	延べ参加者数(人)	※ 6,187	4,099	3,824	1,567	1,932	2,913
	参加者数(人)	※ 205	128	119	85	80	96
元気はつらつ運動教室 (75歳以上)	実施回数(回)	126	171	172	101	128	173
	延べ参加者数(人)	3,318	4,133	4,050	2,049	1,945	2,837
	参加者数(人)	122	127	124	100	82	91
シルバーリハビリ 出前体操教室	実施回数(回)	2,665	3,096	2,950	164	428	2,203
	延べ参加者数(人)	24,015	27,504	25,180	1,281	3,403	16,873

▶ 高齢者スポーツは健康づくりの取組を主体に推進 新型コロナウイルス感染症の影響下においても実施

出所：健康増進課

※運動教室について平成29年度まで40～74歳対象、平成30年度からいきいき運動教室（65～74歳）とアクティブ運動教室（40～64歳）に分かれた。（なお、平成30年度実績は両方含んだ数値となっている。）

※その他、高齢者いきいき健康アップ事業（令和2年度終了）、多年代の出前教室「健康体操教室」など頻度高く実施

2 基本戦略2. スポーツを通じた交流と組織基盤の強化

スポーツを通じた「つながり」や「交流」を促進させ、スポーツを支える団体や組織などの基盤の強化や、地域全体でのスポーツ文化への理解促進を図りました。

子どもから高齢者まで参加可能な様々なスポーツイベントによる交流の促進、つくば市スポーツ協会以外の地域のスポーツ団体への活動支援、学校との連携などを主な課題として、つくば市最大のスポーツイベントであるつくばマラソン、地域交流センターをいかしたスポーツ講座、スポーツを通じた国際交流、地域住民で構成されるスポーツ振興会への支援などの取組を進めてきました。

地域交流センターで行われるヨガ、体操、ダンスなどの教室は申込率が高く、民間のスポーツクラブなどの立地が比較的少ない地域の市民に対して、スポーツ活動と交流の促進に大きく貢献していると考えられます。また、つくばマラソンはランナーの約7割は県外から訪れるなど、全国のランナーとの交流を図る絶好の機会となっているほか、観光推進や地域の活性化にも寄与しています。

しかし、つくば市スポーツ協会の登録団体数や会員数は会員の高齢化などにより年々減少している傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響での活動機会の制限により減少に拍車がかかりました。また、イベントや団体への支援については「する」スポーツに対するものが多く、特に「みる」スポーツにおいては市民の希望は高いものの、市内に観戦するための施設がないことや、新型コロナウイルス感染症の影響による制限や観戦控えなども要因となり十分に進まず、「する」、「みる」、「ささえる」の3つの観点からはバランスが偏る結果となりました。

地域全体でのスポーツ文化への理解促進について、文部科学省は、「スポーツは、人間の体を動かすという本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や、楽しさ、喜びを与えるなど、人類の創造的な文化活動の一つ」であるとしています。例えば、企業においては社会貢献としての観点から、アスリートのキャリアを支える活動などが社会的価値につながるものと考えられ、企業の方針（姿勢）として強く表れています。一方、地域において、スポーツは住民の生活、文化的な営みの中など身近に存在し、市内でも地域特有のスポーツ文化が潜在的に形成されていると考えられます。しかし、このような観点から理解を促す活動は少ないことから、まだまだ市民意識の中で明確化はされていない状況です。



●つくばスポーツフェスティバル&つくパラ



●つくばマラソン

取組結果

■地域交流センターでの運動・スポーツ関連講座開催状況の推移

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
自主講座数（講座）	18	24	14	7	15	16
参加者数（人）	1,436	1,271	922	114	683	680

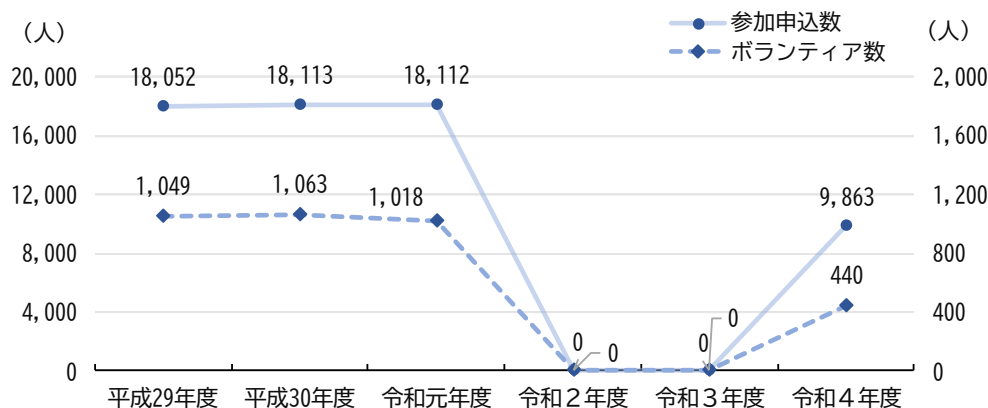
- ▶ 各地域において、ヨガや体操などの自主講座が開催され、申込率が高い一方、毎年講座数は変動

出所：文化芸術課

※平成30年度から女性向け講座の開設や講座数増に着手

※令和3年度では9つの交流センターで15講座開講

■つくばマラソンの参加申込数、ボランティア数の推移



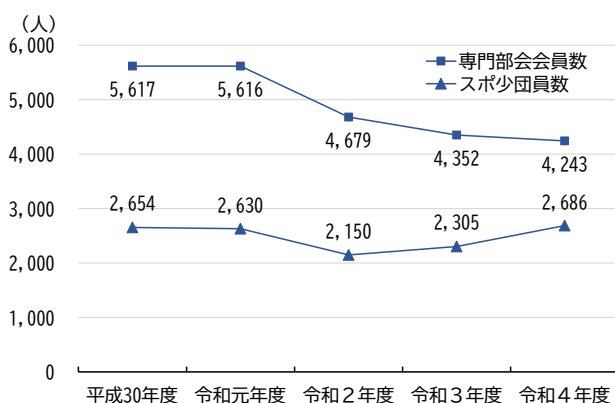
- ▶ 参加申込数とボランティア数は安定して横ばいで推移していたが、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中断 令和4年度からは徐々に復調

出所：スポーツ振興課

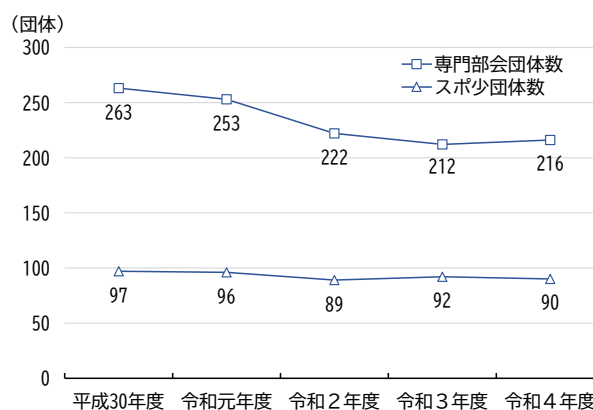
※令和3年度は代替としてオンライン大会を実施

※令和4年度の定員は10,000人

■つくば市スポーツ協会（専門部会、スポーツ少年団）の団体数及び会員数等の推移（会員数・団員数）



（団体数）



- ▶ 専門部会は会員数・団体数ともに減少傾向であり、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたスポーツ少年団は新種目の追加などにより回復傾向

出所：スポーツ振興課

3 基本戦略3. スポーツ環境の整備・充実

スポーツイベントやスポーツ教室を通して、スポーツを楽しみ、学び、理解する機会を提供するとともに、施設や指導者などの環境整備を図りました。

スポーツ施設の適切な管理や新たな施設の整備検討、指導者の養成と資質の向上、スポーツ教室の民間スポーツクラブ等との差別化などを主な課題として、様々な事業に取り組みました。

スポーツ施設については、「つくば市スポーツ施設個別施設計画（令和3年（2021年）3月）」に基づき各施設の修繕を進めたほか、陸上競技場、つくば市民・学校プール、流星台スケートボードパーク、サイクルパークつくば（BMXレーシングコース）等の新たな施設の整備を進めました。これらにより、様々なスポーツを安全・安心な環境で楽しみ、学び、理解する機会は大きく広がるものと考えられます。

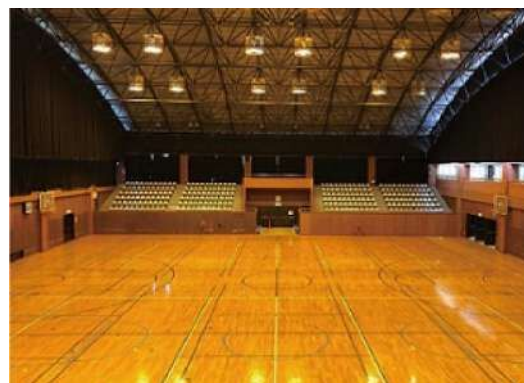
その一方で、既存のスポーツ施設の平日昼間の低稼働率や学校体育施設一般開放の非効率運営、新たに整備されるスポーツ施設の維持管理の方策などの課題もあります。さらに、利用の促進に関しても、アンケート結果からは利用案内等の広報の充実が求められており、市民への情報共有の難しさが伺えます。

指導者の養成と資質の向上については、つくば市スポーツ協会において、スポーツ少年団指導者資格取得を増やす取組を積極的に進めており、人材育成に貢献しています。この取組はスポーツ少年団の指導者のみならず、部活動改革に伴う地域クラブのスポーツ指導者人材育成の基盤としても発展が期待されます。また、部活動改革を背景として、地域には指導者の質と量の確保が求められていますが、依然として指導者の高齢化などの課題もあり、これまでの取組の継続だけでは対応は難しいものと考えられます。

スポーツ教室については、子どものスポーツを始めるきっかけづくりとなる体験教室、民間では多くは実施されていないトレイルランニング教室や障害者スポーツ教室、地域交流センターなどを活用した地域住民のための教室等を実施しました。地域交流センターなどで実施したスポーツ教室では、特定の地区に偏らない身近な場所で行うことで参加者同士の交流機会の促進につながりました。スポーツ教室については、民間との差別化も図りながら進めましたが、例えば障害者スポーツの教室については、令和4年（2022年）実施の「つくば市障害者スポーツ活動に関する調査」において年間を通して参加できる環境を求める声も多かったものの、指導者や開催場所の不足などの要因により、こうした市民のニーズには応えられていない状況となっています。



●スポーツ少年団（サッカー）



●桜総合体育館アリーナ

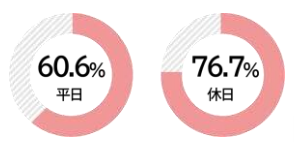
取組結果

■スポーツ施設の利用状況（平成29年度と令和4年度比較）と令和4年度の施設稼働率（利用状況）

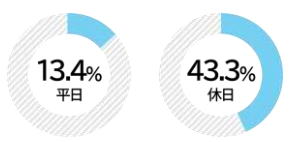
平成29年度		令和4年度		増減率(平成29年度→令和4年度)	
利用人数(人)	利用件数(件)	利用人数(人)	利用件数(件)	利用人数(%)	利用件数(%)
709,538	87,101	632,383	72,191	-10.9%	-17.1%

(主要スポーツ施設等の平日・休日の稼働率)

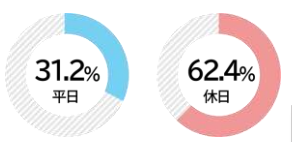
【アリーナ】



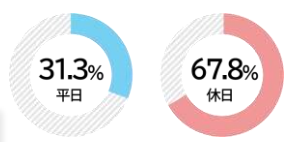
【野球場】



【サッカー場】



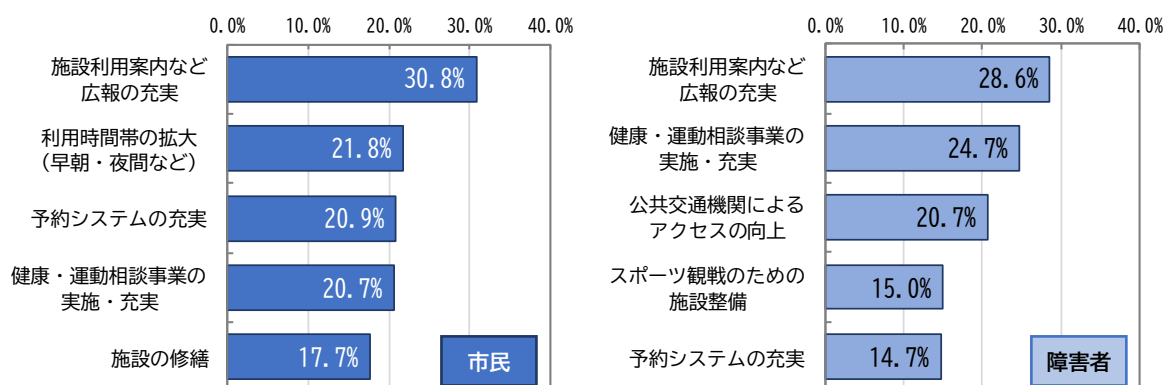
【テニスコート】



▶ 新型コロナウイルス感染症の影響下で施設利用は減少(R3は約50万人)したがR4からは回復傾向にあり、施設等の利用予約は特に休日に集中している傾向となっている

出所：スポーツ振興課

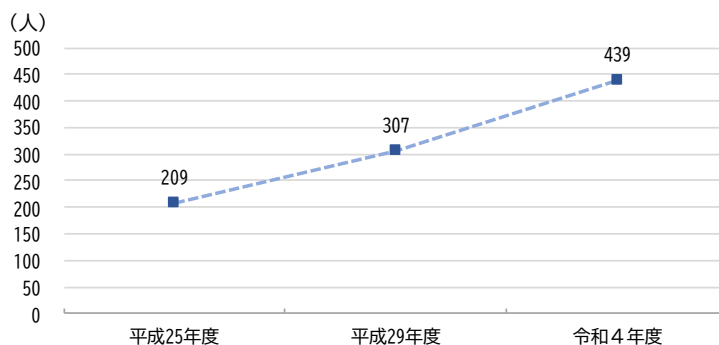
■今後、つくば市の公共スポーツ施設に期待すること（アンケート調査 上位5項目）



▶ 市民、障害者ともに「広報の充実」が最も求められており、利用利便性向上に期待している

出所：令和4年（2022年度）「つくば市障害者スポーツ活動に関する調査」
令和4年（2022年度）「つくば市スポーツ活動に関する調査（成人）」

■つくば市の日本スポーツ協会（J S P O）公認スポーツ指導者の登録者数の推移



▶ 指導者養成の取組推進が後押しとなり、指導者登録者数は増加傾向

出所：スポーツ振興課

4 基本戦略4. スポーツ団体との連携・協働の推進

スポーツの推進のために、地域の団体、関係するスポーツ団体、学校、大学等の研究機関、国、茨城県などとの連携・協働の体制強化を図りました。

筑波大学と連携し「マラソンを科学する」をテーマとしたつくばマラソンの開催や、つくば市に拠点を置くトップスポーツチームをスポーツイベントなどに招き、選手と市民との交流を通じたスポーツ振興や地域の活性化などを進めました。

つくば市におけるスポーツ推進のための連携・協働の体制づくりとして、現在、筑波大学、日本国際学園大学、つくばFC、つくばユナイテッドサンガイア、茨城ロボッツ、大塚製薬(株)、関彰商事(株)、(株)カスミ、(株)ZOZO、(株)筑波銀行、第一生命保険(株)、東京ガス(株)、(株)常総エナジー、東京海上日動火災保険(株)及び明治安田生命保険相互会社とそれぞれ協力・連携協定を結んでいます。

スポーツの推進を地域が一体となって総合的に行う取組としては、国、茨城県、筑波大学との連携・協働のもと、令和元年(2019年)のいきいき茨城ゆめ国体(第74回国民体育大会)では、自転車(ロードレース)やアーチェリー等を市内で開催、令和3年(2021年)の東京2020オリンピック競技大会では、聖火リレーやスイス選手団の陸上競技、柔道、自転車(MTB)の事前合宿の受け入れを行いました。

筑波大学とはつくばマラソンの運営の他、障害者スポーツに関する共同研究としてスポーツ施設等へのアンケート調査やモニター調査等の実施、大学の先生を講師としたスポーツ教室の開催などに取り組みました。

地域の団体や企業との連携としては、スポーツに参加する機会や新たな種目を楽しむ機会を提供するためにつくば市が開催している「つくばスポーツフェスティバル」と(株)カスミ、関彰商事(株)、東京ガス(株)の民間企業が開催している障害者スポーツイベント「つくぱら」を合同開催するなど、新たな連携を模索しながら、規模や内容の拡充を進めました。

また、筑波大学はスポーツに関する国内トップレベルの専門家やアスリートが多く在籍しており、つくば市の最大の強みの一つとなっています。主な連携事項は、専門家や学生の地域のスポーツ活動への参加などです。今後は、スポーツ科学的なエビデンスの活用や、教員、学生との新たな連携など、筑波大学がもつ強みを更に多くの場面でいかしていけるものと考えられます。

このほかトップスポーツチームとの連携の面からは、各競技の中央競技団体は、興行面からも観客席数やフィールドなどの基準を設定しており、それは市民が通常活動するサービレベルの規模とのギャップが生じます。トップスポーツチームと連携・協働を進める上で、それを通じて市域にどのような「する」、「みる」、「ささえる」の環境を創出したら良いか、方向性の検討が求められています。



●アジア大会スケートボード金メダリスト 草木ひなの選手



●トップアスリートバレーボール教室

取組結果

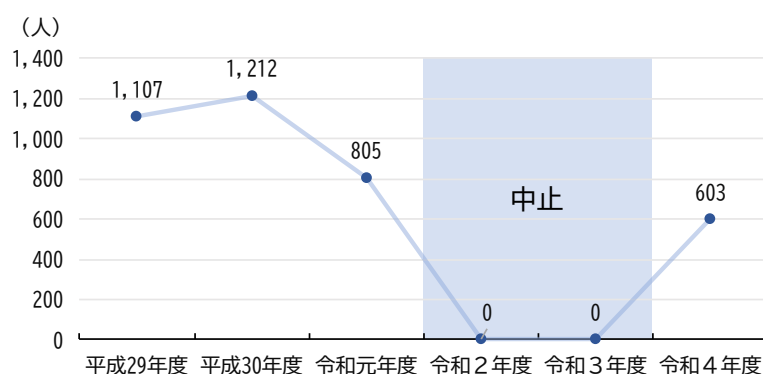
■総合型地域スポーツクラブの状況（3団体）

NPO法人つくばフットボールクラブ (茨城スポーツネットワーク)	NPO法人Next one.	認定NPO法人日本スポーツアカデミー
		
<p>すべての人が、生涯、素晴らしい環境でスポーツを楽しむことを目指して活動中。 【活動内容】サッカー、グラウンドゴルフ、ヨガ、ハンドボール、バスケットボール、プレスポーツ教室など</p>	<p>スポーツを通じて、笑顔あふれる未来をつくることを目的に活動中。 【活動内容】子どもの体育教室、スポーツキャンプ、スポーツイベントなど</p>	<p>健康で明るく生きるをテーマに活動中。 【活動内容】大人のスポーツ教室、小学生スポーツ教室、幼児発育支援教室、アスリート育成・部活動支援、フィットネスや放課後事業など</p>

▶ 地域に根差したスポーツクラブの創設については、団体数は減少(4→3)したが、内容は充実

出所：各団体ウェブサイト

■つくばスポーツフェスティバルの参加者数の推移



▶ 参加者数は減少傾向、新型コロナウイルス感染症の影響下で中止が続いたが、規模や内容の充実を図った

出所：スポーツ振興課

※令和4年度は定員（700人）を設定して開催



●サイクリングイベント
(PEDAL DAY GO -Mt. TSUKUBA-ペダルでいご〜筑波山)



●つくばスポーツフェスティバル&つくパラ（ボッチャ体験）

5 前計画の成果指標について

「つくば市スポーツ推進計画」では、①定期的にスポーツをする市民の割合と②スポーツの推進について満足している市民の割合を、基本目標の達成状況を評価する成果指標として設定しています。各アンケート調査による目標の達成状況は以下の通りです。

①定期的にスポーツをする市民の割合

数値目標 1	成人の週1回以上のスポーツ実施率を <u>65%以上</u> にする。			
	平成29年度（前回調査）	55.1%	令和4年度	→ 55.1%（未達）
数値目標 2	成人の年1回以上のスポーツ実施率を <u>85%以上</u> にする。			
	平成29年度（前回調査）	85.5%	令和4年度	↓ 82.1%（未達）
数値目標 3	障害者の週1回以上のスポーツ・身体的レクリエーションの実施率を <u>50%以上</u> にする。			
	平成29年度（前回調査）	46.8%	令和4年度	↓ 38.3%（未達）

※本頁の示すスポーツ実施率と本調査における実施率の算出方法は異なります。本調査は「スポーツを実施した人」を対象に実施頻度を聞いていますが、実施率の算出では「実施していない人」を含んだ、全体の実施率を算出しています。

②スポーツの推進について満足している市民の割合

数値目標 4	スポーツの推進について満足している市民の割合を <u>55%以上</u> にする。（市民意識調査）			
	平成29年度（市民意識調査）	37.3%	令和4年度	①↓ 33.4%（未達） ②↓ 37.0%（未達）
数値目標 5	つくば市が実施している障害者のスポーツに関する取組の認知度の割合を <u>50%以上</u> にする。			
	平成29年度（前回調査）	12.5%	令和4年度	成人↑ 44.3%（未達） 障害者↑ 40.9%（未達）

※数値目標4の令和4年度数値については、①市民意識調査の数値と②つくば市スポーツ活動に関する調査（成人）よりスポーツ環境に満足・やや満足と回答した方の割合を算出しています。

※数値目標5の令和4年度数値については、つくば市スポーツ活動に関する調査（成人）、つくば市障害者スポーツ活動に関する調査より、障害者スポーツの取組に対して満足～不満と回答した成人、障害者の割合で算出しており、前計画策定時と数値の算出方法が異なります。



●つくば市イメージキャラクター
「フックン船長」

2-3 スポーツを取り巻く現状

1 つくば市スポーツ活動に関する調査

(1) 調査の概要

市民の運動・スポーツ活動の実態やスポーツ振興に関する意識・意向などを把握し、本計画に定める施策検討の基礎資料として活用するため、令和4年（2022年）11月1日（火）～20日（日）の期間で「成人」、「障害者」、「子ども（児童生徒）」を対象にアンケートを実施しました。

対象者		調査方法	配布数	回収数		回収率
①成人	市内在住の18歳以上 (無作為抽出)	・調査票を郵送配布 ・郵送又はweb回答	4,010	1,282	(郵送) 813 (web) 469	32.0%
②障害者	市内在住の障害者手帳を 所持する7歳以上の方 (無作為抽出)	・調査票を郵送配布 ・郵送又はweb回答	1,010	381	(郵送) 294 (web) 87	37.7%
③子ども	市内公立学校の小学5年 生、中学2年生(義務教育 学校)、高校2年生	・QRコード付案内を 学校を通じて配布 ・web回答	3,875	2,294	— (web) 2,294	59.2%

(2) 調査結果のとりまとめ（選択肢等は省略して表記）

■成人のスポーツ活動について

- 1) 成人の週1回以上のスポーツ実施率は55.1%で、前回と同数値。
- 2) 実施したスポーツは、「ジョギング等(59.4%)」や「軽い運動(35.6%)」、「筋トレ(24.8%)」を行っている回答者が多く、前回調査の結果と同様。新たにやってみたいスポーツでは、「ヨガ等(18.3%)」や「アウトドアスポーツ(14.6%)」、「水泳(13.0%)」が人気。
スポーツを行う理由は、「健康(68.2%)」、「体力増進・維持(52.2%)」、「楽しみ、気晴らし(47.7%)」が多く、スポーツをしていない理由については、「仕事や家事などが忙しいから(46.8%)」、「お金に余裕がないから(19.7%)」、「年をとったから(18.6%)」が多い。
- 3) 1年間にスポーツをした場所は、「自宅(48.6%)」、「道路(35.7%)」、「公園(33.7%)」の順で多くの方は身近な場所で活動している。また、「公共スポーツ施設(18.5%)」や「小・中・高の体育施設(3.4%)」などの公共施設の利用は少ない。
- 4) 今後つくば市が目指すべきスポーツ環境については、「市民が身近にスポーツできる環境(81.0%)」や「高齢者・障害者がスポーツをより一層楽しめる環境(42.1%)」が多くを占める。
- 5) スポーツを始める、または新たに始めるきっかけは、「仕事や家事に余裕ができたら(43.4%)」、「スポーツができる場所が近くにできたら(41.0%)」、「やってみたいスポーツがあったら(27.2%)」の順であった。
- 6) スポーツを「みる」、「ささえる」、スポーツ「施設」、「全般」の環境の全体の満足度は、満足傾向だが、「する」環境については、満足と不満足が同程度の結果となった。「施設」については若い世代の不満足傾向がみられる。
- 7) 障害者スポーツについてはかかわりが少ない市民が74.3%と非常に多い。

■障害者のスポーツ活動について

- 1) 週1回以上のスポーツ実施率は38.3%で、前回調査時(46.8%)より減少。
- 2) 実施したスポーツは、「ジョギング等(41.5%)」、「軽い運動(26.2%)」、「筋トレ(13.6%)」を行っている回答者が多く、新たにやってみたいスポーツは、「水泳(12.6%)」、「ヨガ等(9.2%)」、「筋トレ(6.8%)」が人気。
スポーツを行う理由は、「健康のため(60.4%)」、「楽しみ・気晴らしのため(55.4%)」、「体力増進・維持のため(52.5%)」の順。スポーツをしていない人も全体の34.6%で、その理由は「身体上の理由(40.9%)」、「仕事や家事が忙しい(18.2%)」、「身近にできる場所・施設がない(14.4%)」が多く、「スポーツに興味がない(14.4%)」、「特に理由がない(13.6%)」も上位を占めた。
- 3) 1年間にスポーツを実施した場所は、「自宅(50.4%)」、「公園(32.5%)」、「道路(30.0%)」の順で成人の結果同様、多くの人は身近な場所で活動している。次いで、「公共スポーツ施設(18.3%)」や「小・中・高の体育施設(8.3%)」など公共施設の利用もみられる。
- 4) スポーツをする際の障壁については、「新型コロナウイルス感染症が不安(21.3%)」、「どこで行えるか情報が無い(18.6%)」、「特にない(18.6%)」が多くを占める。また、「仲間がいない(16.8%)」や「施設が利用しにくい(10.8%)」、少数ではあるが「利用を断られる(2.4%)」との回答もみられる。
- 5) 市内の障害者スポーツに関する環境の満足度については、全体として「わからない(56.7%)」が最も多く、「わからない」を除くと不満足傾向にある。
- 6) 公共スポーツ施設の利用については、利用したことがあると回答した割合は16.0%で、市の公共スポーツ施設に「施設利用の情報提供(28.6%)」、「予約システムの充実(14.7%)」、「利用時間帯の拡大(11.8%)」などを望んでいる。
- 7) 市内のスポーツに関する情報の入手については、「広報つくば(42.0%)」、「積極的に入手していない(30.2%)」、「入手できていない(16.0%)」に次いで、「家族・友人等(13.6%)」、「新聞・タウン誌(12.3%)」、「市のホームページ(11.8%)」の順となっている。



●障害者のスポーツ体験
(つくば市スポーツ推進委員サポーター講習会)



●つくばスポーツフェスティバル&つくパラ
(車いすバスケット)

■子ども（児童生徒）のスポーツ活動

- 1) 週1回以上のスポーツ実施率は67.1%（授業時間を除く）。
- 2) 体力の自信について、「ある・どちらかといえばある（51.9%）」と「ない・どちらかといえばない（48.1%）」と回答した割合がほぼ半数であり、運動不足についても「かなり感じる・ある程度感じる（50.7%）」と「あまり感じない・まったく感じない（49.3%）」と回答した割合がほぼ半数と、同様の結果であった。
- 3) スポーツをすることの好き嫌いについては、「好き・やや好き（75.4%）」が「嫌い・やや嫌い（11.2%）」を大きく上回る。嫌いな理由は「面倒くさい、疲れる（40.8%）」、「運動・スポーツが苦手（27.8%）」、「運動・スポーツが嫌い（13.7%）」、「他に趣味ややりたいことがある（3.9%）」の順となっている。
- 4) 授業以外のスポーツの実施について、「部活動やスポーツクラブ等でスポーツを行っている（46.9%）」に次いで、「スポーツはしていない（30.1%）」、「スポーツ少年団やクラブチームに所属している（15.3%）」の順となっている。
スポーツをしない理由としては、「他に趣味ややりたいことがある（35.7%）」、「やりたいと思うスポーツがない（32.6%）」、「疲れるから（32.6%）」、「苦手だから（31.3%）」、「機会がなかった（28.1%）」の順となっている。
- 5) スポーツをする目標としては、「体力・技術の向上（62.2%）」、「健康の維持・増進（43.1%）」、「仲間との交流（41.1%）」が上位を占める一方、「プロスポーツ選手・オリンピック選手（12.8%）」を目標とする回答もあった。
- 6) 障害者スポーツについて「関わったことがない（53.9%）」と回答した割合が多い中、「みたことがある（35.7%）」、「やったことがある（16.7%）」との回答もあり、その種類も車いすバスケットボールやボッチャ、ブラインドサッカー、パラ陸上競技など豊富である。
- 7) スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」、スポーツ「施設」の環境の満足度は、全体として満足傾向にあるものの、「ふつう」も多い。
- 8) 運動部活動の地域移行については、体力に自信のある子どもは意欲的だが、不安を感じる子どもも存在する。具体的な意見としては、「制度全般」、「外部指導員」、「部活動の時間等」への意見が多く、さらに不安・否定意見（31件）が歓迎意見（27件）を若干上回る。

2 グループミーティング

(1) グループミーティングの実施概要

■実施目的

スポーツ活動に関する調査（アンケート）では把握できない課題などを明らかにするため、つくば市において日常的にスポーツ活動を行っている団体と、3つのテーマごとにグループミーティングを実施しました。

■実施方法

1) テーマ及び参加者

自由な発想で意見・アイデアが出せるよう、座談会方式で実施しました。

テーマ	スポーツを楽しむ ～身近で気軽にスポーツを楽しむためには～
参加者	・茨城県ウオーキング協会 ・ライフテックつくば（つくばウェルネスパーク指定管理者） ・日本スポーツアカデミー ・スポーツ振興会 ・つくば市軟式野球連盟 ・つくば市バレーボール連盟 ・つくば市スポーツ協会 ・Next one. ・つくば市（スポーツ、高齢福祉、健康増進担当部署）

テーマ	障害者スポーツの推進 ～障害のある方がスポーツを楽しむには～
参加者	・筑波技術大学 ・シッティングスポーツ協会 ・つくば市身体障害者福祉協議会 ・関章商事(株) ・筑波記念病院つくばトータルヘルスプラザ ・つくば市社会福祉協議会 ・筑波大学スポーティア ・つくば市（スポーツ、障害福祉担当部署）

テーマ	子どものスポーツの振興 ～子どもたちのスポーツ環境を整えるためには～
参加者	・スポーツ少年団（ミニバスケットボール部、野球部） ・日本スポーツアカデミー ・つくばFC ・つくばユナイテッドサンガイア ・To Be Athlete Club ・茨城ロボッツ ・つくば市スポーツ協会 ・つくば市（スポーツ、学校教育担当部署）



●グループミーティング

(2) 結果概要（参加者の意見、明らかになった課題）

■スポーツを楽しむ ～身近で気軽にスポーツを楽しむためには～

- だれでも取り組みやすいウォーキングを促進している。用具も会場の心配もいらない。
- スポーツ展などで各スポーツ団体が活動を周知する機会を提供する。
- スポーツに興味をもち、するきっかけとしてアプリの提供や健康と結びつけた情報を提供する。
- やっていたけどやらなくなった人、やってない人のために、スポーツ教室をはじめ、様々な選択肢やきっかけを増やしていきたいが、指導員が不足している。
- スポーツを始める際に同級生や職場の仲間などだれと始めるかが大事。
- 未就学児から高齢者までが気軽に参加できるスポーツ機会を提供し、集いの場や居場所づくりを進めていきたいが、運営スタッフが高齢化している。
- 近年は公園や広場などの施設でやってはダメなことが多くなり、スポーツと馴染めない。
- 大会でつくば市の体育施設を使うが、老朽化により未改修の一部分には危なそうなところもある。
- 施設規模により会場を分散して大会を開催しているが、交流のためには一堂に会して開催できるような施設が必要。
- 今回のように、互いの活動や課題を知り、交流を深める機会がこれまでほとんどなかった。
- スポーツを見て楽しむという要素がつくばには少ない。
- 「みる」機会を増やす環境をつくる。



●つくばリレーカーニバル 2022（つくば市共催事業）

■障害者スポーツの推進 ～障害のある方がスポーツを楽しむには～

- 障害者スポーツの目的は、障害者がスポーツを通じて精神的、身体的な健康を高めていくこと。
- 障害者スポーツを、まずは見てもらう、体験してもらうことが重要だが、障害者スポーツのイベントをやると参加メンバーはいつも同じ。他の参加者が増えない。
- 小学校の体育の授業として体験をしてもらい、機会と参加者を増やす。子どもの頃から障害者と健常者のスポーツの垣根をなくしていく。
- イベント等の情報がうまく広まらず、伝わらない。活動側と受け手側双方に問題がありそう。
- 運営面でのサポートが必要。資金、ボランティアスタッフ等の問題、移動など。特に移動は家族に負担が大きい。
- 社会貢献意識の高い民間企業や地域の団体のボランティア活動との協力連携を更に強化。
- 障害者にとって、eスポーツは移動などサポート問題の軽減につながる。
- 障害者のためのスポーツを多様化させるために専門家とのつながりをつくる。
- 市内の施設利用の空きがなく、活動場所の確保が難しい。
- それぞれの障害の程度や、達成したいことに合わせて課題設定してクラス分けしている。
- てんかんの発作や熱中症など、参加者のリスクに細心の気配りが必要で、活動の時期も春と秋など限定的になる。
- 今回のように、互いの活動や課題を知り、交流を深める機会がこれまでほとんどなかった。



●障スポサポーター養成講座



●障害者スポーツ体験教室（車いすバスケット）

■子どものスポーツの振興 ～子どもたちのスポーツ環境を整えるためには～

- 例えば技術レベルにどれだけ差があっても、子どもたちみんながスポーツを楽しめる仕組みづくり。
- プロスポーツにかかわる人達が、魅力を伝えていく活動をする。
- 活動場所の確保が難しい。使いたくても使えない団体も多い。
- 学校の運動場や体育館の空き時間をなくす工夫をする。
- 大学生や大学院生をいかすために実践的な指導者育成の場を増やす。
- 部活動地域移行が進むと子どもたちの運動する機会が減ってくる可能性があり、その対策として活動団体などの協力が必要になってくると思うが、無償では難しい。
- 部活動地域移行は、スポーツをする機会が確保され、事業者も一定の収益が得られ、学校も安心できるよう、今の枠組みを超えた新たな仕組みをつくる必要がある。
- 今回のように、互いの活動や課題を知り、交流を深める機会がこれまでほとんどなかった。



●スポーツ少年団（サッカー）



●スポーツ少年団（バレー）

3 スポーツ施設の現状

つくば市には、市営スポーツ施設として、体育館（柔剣道場を含む）が9施設、野球場が13施設、サッカー場（多目的広場を含む）が5施設、テニスコートが20施設、その他の施設（プール、健康増進施設、広場等）が8施設あります。また、茨城県からつくば市に移管された洞峰公園にも野球場、テニスコート、プール、多目的広場があります。

市営スポーツ施設については、多くの施設が建築後30年を経過し老朽化が進行していることから、「つくば市スポーツ施設個別施設計画（令和3年（2021年）3月）」を策定し、中長期的な視点で計画的に修繕等を行い利用環境の改善を図ることとしています。

また、新たなスポーツ施設として、令和5年（2023年）には、流星台スケートボードパークとサイクルパークつくば（BMXレーシングコース）が開設され、令和6年（2024年）4月には市民も利用できる学校プールが開設予定です。さらに、つくば市における長年の懸念事項であった陸上競技場については、大規模事業評価を経て、令和6年（2024年）3月に基本計画を策定し、今後、設計・工事を経て、令和9年度（2027年度）末に開設予定です。



●流星台スケートボードパーク



●（仮称）つくば市陸上競技場整備基本計画（案）内「陸上競技場鳥観図」



●サイクルパーク BMXレーシングコース（筑波山ゲートパーク）

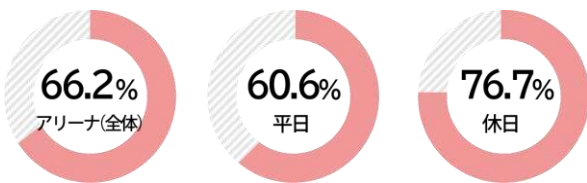
施設の利用状況について、令和4年度（2022年度）の実績で年間利用件数 72,191 件、利用者数合計 632,383 人の利用があります。稼働率は、どの施設においても休日が高いのに比べ平日が低い傾向です。

施設の事前予約については、先着順で管理事務所の窓口に行き予約する方法とインターネット（つくば市公共施設予約システム）による方法がありますが、どの施設においても利用したい時間帯が平日夕方や休日に集中し予約が取りづらい状況にあることから、市民からは予約方法の改善に関する声も寄せられています。

■令和4年度（2022年度）の施設稼働率

【体育施設】

アリーナ



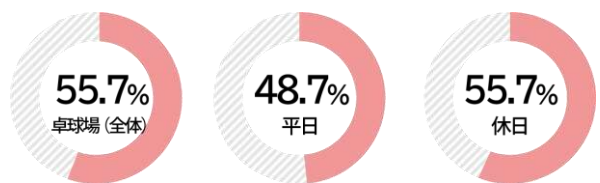
柔剣道場



弓道場



卓球場



【サッカー場】



【野球場】



【テニスコート】



●二の宮公園テニスコート

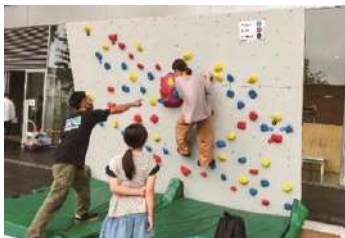
2-4 課題の整理

1 課題の整理

これまでにとりまとめを行った社会情勢等や、取組実績、アンケート、グループミーティング、施設の現状などから考えられる、本計画において解決を図るべき課題をまとめました。

課題1 すべての市民が気軽にスポーツを楽しめる環境の整備

- だれもが身近で気軽にスポーツを楽しめる環境の充実が求められている
- つくば市のスポーツ推進（スポーツ環境）についての満足度は37.0%（33.4%）と低い
- 施設については特に年齢が若い世代の不満足度が高い
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は55.1%で横ばい（計画目標は未達成）
- 女性の週1回以上のスポーツ実施率は増加したが、未実施率も増加
- eスポーツによる高齢者の認知機能の維持や障害者スポーツへの展開等、スポーツにおけるDXの推進が重要
- 「する」、「みる」、「ささえる」ためにも、スポーツの文化的意義や価値、重要性を「しる」ことが必要
- 「する」スポーツのイベントや支援が多く、「する」、「みる」、「ささえる」のバランスの偏りの改善が必要
- スポーツ活動に対して無関心な層に訴求する取組をEBPMに基づき推進することが必要
- つくば霞ヶ浦りんりんロードやいばらきサイクルツーリズム構想等の更なる活用が重要



●つくばスポーツフェスティバル&つくパラ



●トレイルラン教室



●スプリント教室

課題2 障害者スポーツに関する理解や支える環境の整備と共生社会の実現

- 障害者のスポーツの実施率（38.3%）や認知度は低い（計画目標は未達成）
- 障害者のスポーツ活動を支える環境の充実が求められている
- イベント等の参加者が固定化しており、改善が必要
- スポーツの多様な力を活用したSDGs達成への貢献が重要



●障害者スポーツ 展示ブース



●つくばスポーツフェスティバル&つくパラ

課題3

子どもの体力の低下とすべての子どもがスポーツ機会に恵まれる環境の整備

- 運動をする子どもとしない子どもの二極化が更に進んでいる
- 生活環境の変化や新型コロナウイルス感染症の影響で子どもの体力は低下
- 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の取組強化が推進される中、不安等を感じる学生の意見がやや多い



●つくばスポーツフェスティバル&つくパラ



●子どものスポーツ体験教室（剣道）



●スポーツ少年団優勝報告

課題4

スポーツ活動を支える指導者の人材不足、高齢化の顕在化

- 部活動改革を背景に、指導者の質の保障と量の確保が求められている
- 運営スタッフの高齢化に対応した人材確保、世代交代が必要



●スタートコーチ養成講習会



●To Be Athlete Club 陸上教室

課題5

施設の維持管理及び新たな施設の整備

- 多くの施設が建築後30年を経過していることで、安全性や快適性の面で市民満足度が低い
- ICTやIoT等を活用したスポーツ施設等予約システムの利便性の向上が求められている
- バリアフリー化の推進、ノーマライゼーションの理念の周知が求められている
- 学校体育施設の一般開放について、非効率な運用の改善が求められている
- 施設稼働率について、平日の日中は低く、休日や夜間は施設が不足
- 小・中学生の公式記録が取れる陸上競技場、一堂に会する大会の開催ができる規模のアリーナや屋外施設が不足



●豊里テニスコート



●筑波総合体育館アリーナ



●セキショウチャレンジスタジアム

課題6 スポーツ活動に関する情報の周知

- スポーツ活動の情報が届きにくく、広がらず、情報発信の強化が重要
- SNSを活用した情報提供は十分な効果を発揮しておらず、より効果的な手法が求められる

課題7 大学や地域のスポーツ関係団体との連携・協働の強化

- 筑波大学と連携したスポーツ政策をつくば市の強みとして推進することが重要
- 地域のスポーツ関係団体との連携・協働の強化が重要



●筑波大学ホームゲーム「TSUKUBA LIVE! NEXT50」



●鹿島アントラーズフレンドリータウンデイズ



●茨城ロボッツつくば市民の日

第3章

計画の基本的な考え方

第3章 計画の基本的な考え方

3-1 基本理念

スポーツで“つながる”まち つくば

つくば市では、これまで「スポーツで“つながる”まち つくば」を基本理念とし、スポーツを通じて人と人、人と地域、文化・社会が“つながる”まちを将来像として、つくば市のスポーツを推進してきました。目まぐるしく変化する時代の流れの中にあって、この基本理念はすべての市民が共有する普遍的なものにとらえることができます。本計画では、この基本理念を引き継ぎ、新たな時代に対応したスポーツ文化、スポーツ環境を創造していくものとします。

つくば市は、「する」、「みる」、「ささえる」に「しる」を加えた4つの視点でスポーツ活動を捉え、一人ひとりに応じた多様なかかわり方で多くの市民が気軽にスポーツにふれ、知り、楽しむことで、生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフが送れるよう、地域にあったスポーツ文化を創造します。

また、スポーツ活動を巡る様々な課題の解決に向けて、あらゆる主体が連携・協働し、スポーツを通して「つながり」、「交流する」ことや、スポーツのもつ力で地域の活性化につなげるなど、つくば市らしいスポーツ環境を創造します。



3-2 基本目標（基本目標、基本戦略、成果指標）

本計画では、基本理念を踏まえ、基本目標と3つの基本戦略、成果指標を定めます。

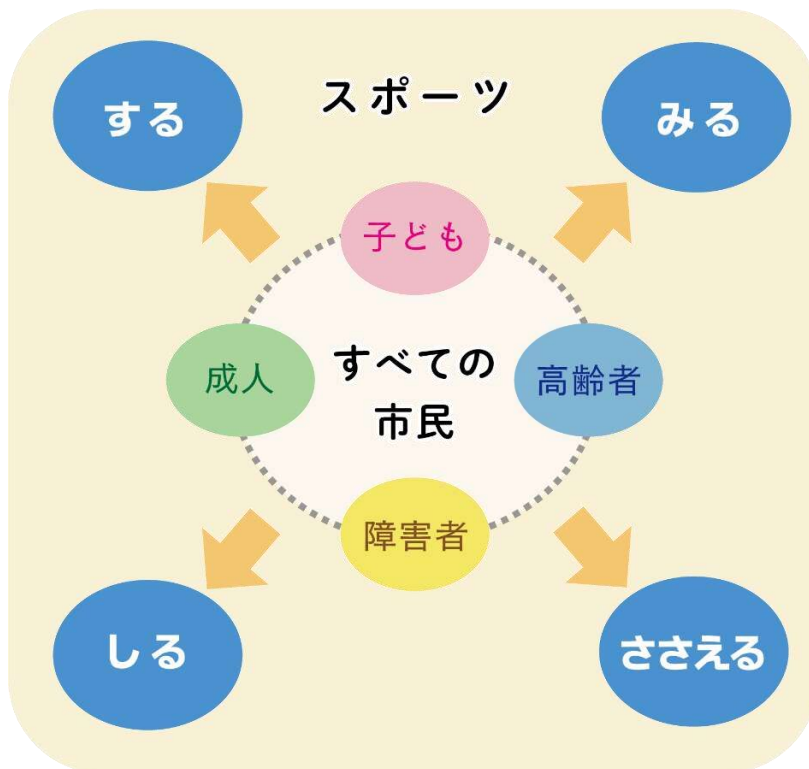
1 基本目標

「スポーツで“つながる”まち つくば」を実現するため、次の基本目標を定めます。

すべての市民がスポーツにふれることができるよう、「する」、「みる」、「ささえる」、「しる」視点でスポーツ文化の創造を目指すとともに、多様な主体の連携・協働により、市民が「つながり」、「交流」するつくば市らしいスポーツ環境を目指します。

■概念図

スポーツで“つながる”まち つくば



2 基本戦略

基本目標に基づき、つくば市のスポーツ施策を展開していくため、大きく個人、組織、環境の3つの視点をもって、次の基本戦略を定めます。

基本戦略 1

スポーツ機会の創出

個人

子どもから成人、高齢者まで、すべての市民が障害の有無等にかかわらず生涯にわたりスポーツをすることができる機会の創出を図ります。また、今までスポーツにふれる機会がなかった人達へスポーツを楽しむ機会・する機会を提供します。さらに、これらスポーツを通じた交流を促進し、つくば市全体でスポーツ文化の創造を目指します。

▼課題

- だれもが身近で気軽にスポーツを楽しめる環境の充実
- 運動をする子どもとしない子どもの二極化の改善
- 生活環境の変化や新型コロナウイルス感染症の影響による子どもの体力低下の改善
- 学校部活動及び地域クラブ活動推進への生徒の不安解消
- 部活動改革を背景とした指導者の質の保障と量の確保
- 高齢者と障害者スポーツなどにおけるDXの推進
- 障害者のスポーツ活動を支える環境の充実
- 障害者のスポーツ実施率の向上の取組の推進
- 障害者スポーツにおける認知度向上の取組の推進
- 障害者スポーツイベント等の参加者の固定化の改善
- 成人のスポーツ実施率向上の取組の推進
- 女性のスポーツ未実施率を減らす取組の推進
- 「する」スポーツという新たな視点での啓発
- 「みる」、「ささえる」スポーツの推進
- スポーツ活動に無関心な層に訴求する取組の強化
- スポーツ活動の情報発信の強化
- SNSを活用した効果的な情報提供
- つくば霞ヶ浦りんりんロードやいばらきサイクルツーリズム構想の活用

取り組むべき施策

施策1 子どものスポーツ活動の促進

施策2 高齢者のスポーツ活動の促進

施策3 障害者のスポーツ活動の促進

施策4 成人のスポーツ活動の促進

施策5 スポーツをやる機会の提供

スポーツ活動を支える基盤である指導者や、地域やスポーツ団体、大学や研究機関、企業など多様な主体と連携・協働を深め、スポーツ推進体制の強化を図るとともに、スポーツを通してつながり、交流を図ることや、スポーツのもつ力で地域の活性化へとつなげていきます。

▼課題

- 指導者の質の保障と量の確保
- 運営スタッフの高齢化に対応した人材確保、世代交代の支援
- 学校部活動及び地域クラブ活動推進への生徒の不安解消
- 地域のスポーツ関係団体との連携・協働の強化
- 筑波大学と連携したスポーツ政策の推進
- つくば霞ヶ浦りんりんロードやいばらきサイクルツーリズム構想の活用
- スポーツの多様な力を活用したSDGs達成への貢献

取り組むべき施策

施策6 スポーツ団体・組織の基盤強化及び指導者等の育成

施策7 多様な主体との連携・協働



●ハワイ大学及び筑波大学のつくば市訪問

市民が身近で気軽にスポーツをできる場所や、だれもが利用しやすい施設の整備・充実を図るとともに、安心してスポーツ活動ができる体制づくりに努め、つくば市だからこそ実現できるスポーツ環境を創造します。

▼課題

- だれもが身近で気軽にスポーツを楽しめる環境の充実
- つくば市のスポーツ環境についての満足度向上の取組の推進
- 施設の安全性・快適性についての満足度向上の取組の推進
- 施設についての若い層の不満足度減少の取組の推進
- 障害者のスポーツ活動を支える環境の充実
- バリアフリー化の推進、ノーマライゼーションの周知
- 陸上競技場の整備推進
- 一堂に会する大会が開催可能な大規模施設の整備推進
- ICT等を活用したスポーツ施設予約システム導入等による利便性向上の取組の推進
- 学校体育施設の一般開放の非効率な運用の改善
- 平日日中の施設稼働率向上と休日・夜間の施設不足の解消
- つくば霞ヶ浦りんりんロードやいばらきサイクルツーリズム構想の活用
- 学校部活動及び地域クラブ活動推進への生徒の不安解消

取り組むべき施策

施策8 スポーツ施設等の整備及び維持管理

施策9 スポーツ環境の整備

施策10 スポーツ活動における安全の確保



●つくば市民・学校プール

3 成果指標

基本戦略の効果や進捗を図るための成果指標を設定します。

■基本戦略1 スポーツ機会の創出			
関連 施策	指標	現況値(R4)	目標値(R15)
施策1	児童生徒の週3回以上のスポーツ実施率 ＊体育の授業や登下校を除く	小5：44.4% 中2：65.9% 高2：53.4%	小5：54% 中2：75% 高2：63%
	【指標の考え方】 子どものスポーツ活動を促進する施策により、児童生徒の週3回以上のスポーツの実施率について、年1%程度の増加を目指し、10年間で10%以上の増加を目指す。		
施策1	卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合 ＊体育の授業や登下校を除く	小5：66.0% 中2：68.4% 高2：68.1%	小5：80% 中2：80% 高2：80%
	【指標の考え方】 子どものスポーツ活動を促進する施策により、学校卒業後も運動やスポーツをしたいと思う児童生徒を、年1%程度の増加を目指し、10年間で10%以上の増加を目指す。		
施策2 - 施策4	18歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率	55.1%	70%以上
	【指標の考え方】 国が策定した「第3期スポーツ基本計画」において、「成人のスポーツ実施率を週1回以上が70%となることを目指す。」と示されているため、国に合わせ、70%以上を目標に、週1回以上のスポーツを実施する市民の割合の増加を目指す。		
施策2 - 施策4 - 施策5	18歳以上の市民のスポーツ観戦率	56.8%	80%以上
	【指標の考え方】 市内で試合を観戦できる環境を整えるほか、各施策によってスポーツに関心を寄せる市民を増加させ、TVやインターネット等を含めて試合を観戦する割合の増加（市民の8割以上）を目指す。		
施策3	障害者の週1回以上のスポーツ・身体的レクリエーションの実施率	38.3%	50%以上
	【指標の考え方】 新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、障害者のスポーツ実施率が減少していることから、5年前の実施率(46.8%)まで戻していくことを視野に入れ、引き続き50%以上を目標に、週1回以上のスポーツ・身体的レクリエーションを実施する障害者の割合の増加を目指す。		
施策5 - 施策6 - 施策7	つくば市や地域スポーツ団体が開催するスポーツイベント(全般)の参加率	-	20%
	【指標の考え方】 スポーツイベントの充実(質・広報等含む)を図り、各施策によってスポーツに関心を寄せる市民を増加させ、参加率増加(市民の5人に1人が参加…20%)を目指す。		

■基本戦略2 スポーツ推進体制の強化

関連 施策	指標	現況値(R4)	目標値(R15)
施策5 - 施策6 - 施策7	つくば市や地域スポーツ団体が開催するスポーツイベント(全般)の参加率 【指標の考え方】 スポーツイベントの充実(質・広報等含む)を図り、各施策によってスポーツに関心を寄せる市民を増加させ、参加率増加(市民の5人に1人が参加…20%)を目指す。	-	▶ 20%
施策6	つくば市スポーツ協会の登録会員数 【指標の考え方】 新型コロナウイルス感染症等の影響を大きく受け、全体的な会員数(特に専門部会)が減少していることから、過去10年の内最多の会員数程度(H28:9,266人)まで登録者数を戻していくことを目指す。	6,929人	▶ 9,300人以上
施策6	スタートコーチ養成講座受講者数 【指標の考え方】 運動部活動の地域移行を見据えつつ、指導者の資質の向上と確保を図るため、各施策により受講者数の増加を目指す。(現在のつくば市のスポーツ少年団登録団体数:93団体×2人=186人+部活動改革により予想されるスポーツ少年団加盟数:20団体×2人=40人≒230人)※既存の少年団に加入する場合と、新たに少年団を立ち上げる場合が考えられる。	(R3)82人	▶ 230人

■基本戦略3 スポーツ環境の整備・充実

関連 施策	指標	現況値(R4)	目標値(R15)
施策8 - 施策9 - 施策10	18歳以上の市民の公共スポーツ施設の満足度 【指標の考え方】 公共のスポーツ施設について満足(満足+やや満足)している割合を55%以上(R4年度の週1回以上スポーツをしている市民と同割合=週1回以上スポーツしている人が満足と思う環境の充実)を目指す。	39.5%	▶ 55%以上

第4章

スポーツ推進に向けた取組

第4章 スポーツ推進に向けた取組

4-1 施策の体系



施策	施策の内容
<p>1 子どものスポーツ活動の促進</p> <p>課題1 課題3 課題4</p>	<p>(1) 学校体育を通じたスポーツ活動</p> <p>(2) 地域と連携したスポーツ活動</p>
<p>2 高齢者のスポーツ活動の促進</p> <p>課題1</p>	<p>(3) 健康づくりに役立つスポーツ活動</p> <p>(4) 交流や生きがいづくりにつながるスポーツ活動</p>
<p>3 障害者のスポーツ活動の促進</p> <p>課題1 課題2</p>	<p>(5) スポーツ環境の向上と認知度向上</p> <p>(6) スポーツ活動を支える仕組みづくり</p>
<p>4 成人のスポーツ活動の促進</p> <p>課題1</p>	<p>(7) 気軽に取り組めるスポーツ活動</p> <p>(8) 仲間づくりや地域活動につながるスポーツ活動</p>
<p>5 スポーツをする機会の提供</p> <p>課題1 課題2 課題6</p>	<p>(9) すべての市民に向けた運動・スポーツをする機会の提供</p> <p>(10) スポーツ情報にふれる機会の拡充</p> <p>(11) つくば市らしいスポーツ文化の創出</p>
<p>6 スポーツ団体・組織の基盤強化 及び指導者等の育成</p> <p>課題3 課題4</p>	<p>(1) スポーツ団体・組織の支援</p> <p>(2) 指導者の養成と地域リーダーの育成</p>
<p>7 多様な主体との連携・協働</p> <p>課題1 課題2 課題7</p>	<p>(3) 多様な主体との連携</p> <p>(4) 諮問機関における調査・審議</p> <p>(5) 多様な連携を通じた啓発活動</p>
<p>8 スポーツ施設等の整備 及び維持管理</p> <p>課題1 課題2 課題5</p>	<p>(1) 整備及び維持管理</p> <p>(2) バリアフリー化の推進</p> <p>(3) 利便性の向上</p>
<p>9 スポーツ環境の整備</p> <p>課題1</p>	<p>(4) 地域特性をいかしたスポーツ環境の充実</p> <p>(5) スポーツツーリズムの推進</p>
<p>10 スポーツ活動における 安全の確保</p> <p>課題3</p>	<p>(6) スポーツ活動における安全教育の推進</p> <p>(7) スポーツ事故・障害の予防等に係る啓発</p>



子どもから成人、高齢者まで、すべての市民が障害の有無等にかかわらず生涯にわたりスポーツをすることができる機会の創出を図ります。また、今までスポーツにふれる機会がなかった人達へスポーツを楽しむ機会・する機会を提供します。さらに、これらスポーツを通じた交流を促進し、つくば市全体でスポーツ文化の創造を目指します。

施策1 子どものスポーツ活動の促進

施策2 高齢者のスポーツ活動の促進

施策3 障害者のスポーツ活動の促進

施策4 成人のスポーツ活動の促進

施策5 スポーツをしる機会の提供

生涯にわたりスポーツに親しみ、心身ともに健康な生活を送るための基礎づくりとして、子どものスポーツ活動を促進します。

(1) 学校体育を通じたスポーツ活動

①子どものスポーツ活動が豊かなものとなるよう、学校体育の授業などを通して児童生徒の体力と運動能力向上に努め、健康な体づくりや競技スポーツへの取組支援を行うとともに、「スポーツが好きな子ども」の育成や、将来夢をもつことの大切さ、スポーツに親しむことの動機づけにつなげるための取組を行い、子どもの成長などに合わせたスポーツ活動を促進します。

(2) 地域と連携したスポーツ活動

②子どものスポーツ活動を支えてきた学校部活動においては、ニーズの多様化や教員の働き方改革を見据えつつ運動時間を確保し、安心してスポーツに取り組めるよう、各学校の実情に合わせながら、地域のスポーツクラブ、企業等、地域と連携して段階的な地域移行を推進します。

③地域連携のもと、幼児期から学童期、青年期まで、スポーツの習慣化につながるよう、体を動かすことの楽しさを体験できる機会を提供するなど、子どもが安全に楽しく運動やスポーツに取り組める環境の充実を図ります。



●スポーツ少年団（スポーツ鬼ごっこ）

高齢者の活動機会の増加や健康・体力の保持増進とともに、生きがいや仲間づくりなどにつながるよう、関係団体・組織と連携を図りながら、高齢者のスポーツ活動を促進します。

(3) 健康づくりに役立つスポーツ活動

- ①生涯にわたって健康や体力の保持増進につなげていけるよう、簡単に取り組める軽運動・ストレッチなどのプログラムの提供や、専門指導者による出前健康教室等を開催するなど、高齢者が運動できる機会を提供します。また、自宅等で気軽に運動したい人に向けては、動画配信等を活用した取組などを推進します。
- ②高齢者の介護予防や認知機能の低下予防のほか、孤立防止や活力増進が期待されるeスポーツ等の新たな技術やサービスの活用について、関連団体と連携しながら検討します。

(4) 交流や生きがいづくりにつながるスポーツ活動

- ③高齢者の健康づくりと交流の場として、年齢や健康状態、適性に合わせたスポーツ大会等を開催し、参加促進を図るとともに、多世代で楽しめるレクリエーションスポーツの普及・支援を図ります。
- ④高齢者がいきいきと地域で過ごせるよう、シルバークラブやスポーツ振興会等におけるスポーツ活動を支援するなど、スポーツを通じて生きがいや仲間づくりにつながる機会を提供します。



●つくば市地区対抗グラウンド・ゴルフ大会



●モルック体験会

障害者がスポーツ・レクリエーションに取り組むことが、特別なことではなく日常的に当たり前であり、スポーツを通して障害者と健常者が共生する社会の実現を目指して、市民の相互理解及び障害者のスポーツ活動を促進します。

(5) スポーツ環境の向上と認知度向上

- ①障害の有無にかかわらず、日常的にスポーツ施設を利用しやすい環境を整備するとともに、関連機関・団体と連携し、障害者が地域と交流する機会や健常者と共にスポーツができる機会の充実を図ります。
- ②すべての市民の障害者スポーツに関する認知度や興味を上げていくことを目指し、参加・体験型のスポーツイベントを実施して障害者の社会参画や交流を促進します。また、競技にフィーチャーしたイベントを行うなど、障害者スポーツの普及を図ります。

(6) スポーツ活動を支える仕組みづくり

- ③障害者のスポーツ活動をサポートする仕組みを構築するとともに、サポートする人材を育成し、イベント等への参加促進とスポーツ活動の拡充につなげます。また、つくば市スポーツ推進委員と連携し、地域に根付いた障害者スポーツの普及促進を図ります。
- ④障害者のリハビリテーションや就労支援、社会参画のきっかけづくりにつなげるため、eスポーツ等の新たな技術やサービスの活用について、関連団体と連携しながら検討します。



●車いすバスケット体験（つくばスポーツフェスティバル&つくパラ内）

市民が生涯にわたり、より豊かに充実した生活が送れるよう、身近で気軽に、継続してスポーツに取り組める機会を提供し、成人のスポーツ活動を促進します。

(7) 気軽に取り組めるスポーツ活動

- ①市民の健康や体力の保持増進を促すため、運動教室やスポーツ教室、出前健康教室を開催するなど、生涯にわたりスポーツに取り組める機会を提供します。また、健康づくりを支援する各種アプリの活用を促進するなど、スポーツへの参加促進を図ります。
- ②働き盛り世代や子育て世代などに向けては、開催時間や内容のみならず年代や性別、ライフスタイルなど、多様なニーズに対応したスポーツ機会を提供するとともに、オンライン等を活用して場所や時間に制限されることなく気軽に運動・スポーツに親しむ機会を提供するなど、スポーツへの参加促進を図ります。

(8) 仲間づくりや地域活動につながるスポーツ活動

- ③地域資源を活用したスポーツイベント等の取組を通じて、世代間交流や仲間づくりにつながる機会を提供します。また、つくば市スポーツ協会のスポーツ振興会等の地域で活動している団体への支援を行うとともに、世代交代に向け、将来の地域活動を担う人材の育成を図ります。



●つくばマラソン

子どもから高齢者まで、現在スポーツを実施している人もしていない人も、すべての市民が多様な運動・スポーツにふれる機会やスポーツについて学ぶ機会を提供するとともに、これらイベント等を通じた交流の場を提供します。

(9) すべての市民に向けた運動・スポーツをやる機会の提供

- ①市民が気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントやスポーツ大会、多様なスポーツを体験・学べるイベント等を開催するなど、様々なアプローチにより、市民がスポーツに親しみ、交流できる機会を提供します。また、スポーツに無関心な人の興味関心を喚起するような啓発活動、イベントや体験の提供など、スポーツを知り、スポーツを始めるきっかけとなる機会を提供します。

(10) スポーツ情報にふれる機会の拡充

- ②つくば市で実施している事業に加え、各団体の活動情報をより多くの人に効果的に届けられるよう、関連する団体と連携を図りながら、市広報紙やウェブサイト、関連SNS等を活用し、情報発信を行います。
- ③ナッジの理論を活用するなど情報発信について研究し、スポーツに取り組むきっかけがなかった市民やスポーツに積極的にふれていなかった市民に向けて、効果的に情報を届ける新たな仕組みを検討します。

(11) つくば市らしいスポーツ文化の創出

- ④健康づくりとして気軽に取り組めるウォーキングやランニングについては、スポーツイベントの充実に努めるとともに、つくば市ならではの自然風景、歴史や街並みを楽しめるフットパスコース、ウォーキングコース等のPRを図り、身近なスポーツとしての活用を推進します。
- ⑤つくば市最大のスポーツイベントであり、全国からランナーが集まるつくばマラソンや、つくば霞ヶ浦りんりんロード、筑波山を活用したサイクリングなどのスポーツイベント、スポーツ大会の開催により、つくば市らしいスポーツ文化を創出し、スポーツを通じた交流を図ります。
- ⑥国際都市つくばにふさわしいスポーツを通じた国際交流機会の拡大を目指し、市内在住の外国の方を含め、すべての市民に多様な交流機会を提供します。



スポーツ活動を支える基盤である指導者や、地域やスポーツ団体、大学や研究機関、企業など多様な主体と連携・協働を深め、スポーツ推進体制の強化を図るとともに、スポーツを通してつながり、交流を図ることや、スポーツのもつ力で地域の活性化へとつなげていきます。

施策6 スポーツ団体・組織の基盤強化及び指導者等の育成

施策7 多様な主体との連携・協働

地域におけるスポーツの推進役である指導者、スポーツ団体などとの連携や支援をすることにより、スポーツ推進基盤を強化します。また、安全にスポーツ活動が行えるよう指導者やボランティアなどの人材の育成・養成を目指します。

(1) スポーツ団体・組織の支援

- ①つくば市スポーツ協会を構成している専門部会、スポーツ少年団、スポーツ振興会のほか、つくば市レクリエーション協会等への支援を行うとともに、多様な連携を図りながら、スポーツ・レクリエーションを推進します。
- ②総合型地域スポーツクラブ等と連携したスポーツの推進に関する事業を進めるとともに、市内スポーツ団体を支援するなど、スポーツ推進基盤を強化します。

(2) 指導者の養成と地域リーダーの育成

- ③スポーツ団体と連携して、「安全に、正しく、楽しく」スポーツを指導できる指導者や、地域におけるスポーツ交流を促進するリーダーを育成するとともに、資質のある人材の確保に取り組み、特に次世代を担う若年層の指導者や女性指導者の積極的な登用を図ります。また、地域とのコーディネーター役であるつくば市スポーツ推進委員の活動を促進するとともに、地域で運動を始めるためのきっかけづくりと組織的な活動の推進を図る運動普及推進員を養成します。
- ④子どもへの安全で安心な指導を行えるよう、つくば市スポーツ協会と連携した指導者講習会や茨城県の事業等を活用するほか、教員のための指導者研修会を実施します。また、部活動の地域移行を見据え、各団体の協力のもと、大学生等の若い世代や地域で活動する市民に向けて積極的に指導者講習会の受講を促します。



●つくば市スポーツ推進委員研修会

地域やスポーツ団体、大学や研究機関、企業など多様な主体と連携・協働し、スポーツ推進体制を強化するとともに、つくば市のスポーツにおける多様な可能性をともに創ります。

(3) 多様な主体との連携

- ①つくば市の強みである大学や研究機関、企業、また、地域や各スポーツ団体・組織等と連携・協働体制を深め、「ささえる」スポーツの充実やスポーツの推進に取り組めます。
- ②大学や研究機関等との連携においては、各主体の知見を活用し、更なる可能性の創出に向けた取組やSDGs達成に向けた取組などを検討します。例えば、スポーツイベント等における最新デジタル技術の活用や、学校体育や市民の健康づくり・スポーツ活動におけるデータ分析の支援、国際都市つくばとしてホストタウンの登録や海外アスリートとの国際交流等を推進します。
- ③大学や研究機関等によるスポーツ医・科学に関する知見を活用し、アスリート等に対する総合的なサポート体制を整備するとともに、競技力向上への活用を検討します。
- ④庁内においては、スポーツ振興課及び関係部署で情報共有を図り、連携を強化しながら、一体的にスポーツ活動に係る施策や事業等に取り組めます。

(4) 諮問機関における調査・審議

- ⑤スポーツ団体関係者、学識経験者などから構成する「つくば市スポーツ推進審議会」において、つくば市のスポーツの推進に関する事項を市長の諮問に応じて調査・審議します。

(5) 多様な連携を通じた啓発活動

- ⑥つくば市にかかわりのあるトップスポーツチームやアスリート、大学等と連携し、次世代を担う子どもを主体とした、多くの市民との交流の場を提供するなど、市民のスポーツ活動に対する効果的な啓発を推進します。
- ⑦多様な主体との連携・協働により、スポーツイベントやスポーツ大会等を開催・誘致するなど、地域の活性化と市民の「しる」機会の提供、「みる」スポーツへの興味関心及び応援の機運醸成を図ります。

〔 各種団体と連携して
開催したイベント風景 〕





市民が身近で気軽にスポーツをできる場所や、だれもが利用しやすい施設の整備・充実を図るとともに、安心してスポーツ活動ができる体制づくりに努め、つくば市だからこそ実現できるスポーツ環境を創造します。

施策8 スポーツ施設等の整備及び維持管理

施策9 スポーツ環境の整備

施策10 スポーツ活動における安全の確保

身近で気軽にスポーツに親しめる場所の充実及びスポーツ施設の利用促進のため、スポーツ施設及び関連する公共空間の整備、維持管理を行います。

(1) 整備及び維持管理

- ①市民が安全で利用しやすいスポーツ環境を目指し、市民ニーズの把握に努めるとともに、市内のスポーツ施設の修繕や改修など適正な管理を行います。また、陸上競技場等のスポーツ施設について、市民のニーズに合わせた整備を推進します。
- ②市民が運動やスポーツに親しみ、交流の場として利用できるよう、スポーツ関連施設や、健康の保持増進のための施設、野外活動・キャンプ等の施設の適切な管理・運営に努めるとともに、地域交流センター、ふれあいプラザ等の活用を図ります。

(2) バリアフリー化の推進

- ③すべての市民が利用しやすく、更に障害者スポーツ競技者にとっても利用しやすい施設となるようバリアフリー化を進め、適切な維持管理を行います。また、障害者の利用も含めて広く施設に関する情報を共有します。

(3) 利便性の向上

- ④学校体育施設の利用については、運用・利用方法の見直しを図り、地域への開放を推進します。
- ⑤スポーツ施設の利用については、現行のシステムで可能な施設の空き状況の確認や、予約については継続実施するとともに、利用登録カード発行手続きの簡素化や支払い方法の見直しなど、ICTやIoTを活用したシステムを検討します。



●ヘルスプラザ（つくばウェルネスパーク） プール



●筑波総合体育館

つくば市や地域の特性を活用したスポーツ推進の取組を進め、つくば市独自のスポーツ環境の整備を行います。

(4) 地域特性をいかしたスポーツ環境の充実

- ①「ランナーに愛されるまち」「自転車のまちづくり」の一層の推進を図るため、ランニングに関する取組を周知するとともに、茨城県のつくば霞ヶ浦りんりんロード利活用促進活動と連携した広域レンタサイクル事業とつくば市のレンタサイクルやシェアサイクル事業の実施、周知を進めます。
- ②多様な主体と連携して、地域スポーツをいかしたスポーツ観戦などの機会を提供し、「みる」スポーツの機運醸成を図ります。

(5) スポーツツーリズムの推進

- ③つくばマラソンや、つくば霞ヶ浦りんりんロード、筑波山を活用したサイクリングイベント等との連携や、筑波山周辺地域や自然環境の活用を進めるなど、地域のスポーツ資源をいかしたスポーツツーリズムを推進します。
- ④フォレストアドベンチャー・つくば等を活用し、観光の活性化に寄与するスポーツツーリズムを促進します。

スポーツ活動を行う上での安全教育を徹底するとともに、関係機関と連携しスポーツ事故やスポーツ障害の予防等に係る啓発に努めます。

(6) スポーツ活動における安全教育の推進

- ①市民が安全にスポーツ活動を行えるよう、スポーツ推進委員の研修会や、指導者の講習会等において、安全管理に関する教育研修を徹底して実施します。
- ②学校において、子どもたちが安全にスポーツ活動を行えるよう、教員のための指導者研修会を実施します。

(7) スポーツ事故・障害の予防等に係る啓発

- ③市内の大学や研究機関等によるスポーツ医・科学に関する知見を活用し、市民や指導者等に対するスポーツ事故やスポーツ障害の予防等に関する啓発等を支援します。

4-3 3つの重点取組

基本目標の実現に向けた、今後5年間で特に重点的に推進していく取組を3つ整理しました。

これらの重点的な取組の相互連携を図りながら計画を推進し、市民のスポーツ活動を後押ししながらつくば市らしいスポーツ環境を目指します。また、それぞれの取組で、最終的に到達したい「みらいイメージ」を示します。

重点取組 1

だれにでもやさしいスポーツのまちプロジェクト

令和4年度（2022年度）から検討を進めてきた「スポーツを通して障害者と健常者が共生する社会を目指す取組」に基づき、より多くの障害者がスポーツ・レクリエーションに取り組むことができる環境づくりや、障害者スポーツ競技の更なる普及促進を通して、だれにでもやさしいスポーツのまちを目指します。

今後5年間で特に推進していくこと

（関連する施策）

施策3 （5）スポーツ環境の向上と認知度向上

- 日常的にスポーツ施設を利用しやすい環境の整備
- すべての市民のスポーツを通じた交流機会や社会参画の促進
- 団体等と連携した参加・体験型のスポーツイベントの実施
- 競技に関するイベント実施などによる障害者スポーツの普及促進

施策3 （6）スポーツ活動を支える仕組みづくり

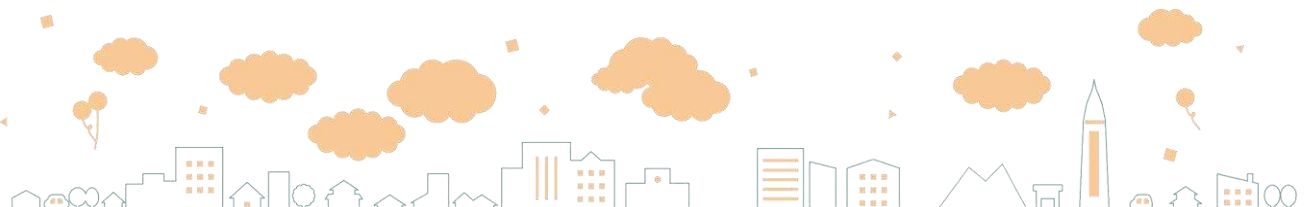
- 障害者のスポーツ活動をサポートする仕組みの構築・サポートする人材の育成
- リハビリや就労支援、社会参画につなげるためのeスポーツ等の新技術の活用検討

施策8 （2）バリアフリー化の推進

- 施設のバリアフリー化の推進と適切な維持管理
- 障害者の利用も含めた施設に関する情報共有

みらいイメージ

スポーツを通して市民のだれもが共生するやさしいまちが実現し、障害者も健常者も、日常的に当たり前スポーツ・レクリエーションを楽しんでいます。



スポーツを通じた多様な主体の連携・協働体制を充実し、未来を担う子どもたちがスポーツに興味関心をもてるような機会づくりや、学校や地域で安全・安心に運動やスポーツができる環境づくりを進め、生涯にわたりスポーツに親しむことができる、スポーツでつながるまちを目指します。

今後5年間で特に推進していくこと

(関連する施策)

施策1 (2) 地域と連携したスポーツ活動

- 学校部活動の段階的な地域移行の推進
- 安全に楽しく運動やスポーツに取り組める環境の充実

施策6 (1) スポーツ団体・組織の支援

- つくば市スポーツ協会、つくば市レクリエーション協会等への支援と連携
- 総合型地域スポーツクラブ等との連携、市内スポーツ団体の支援

施策6 (2) 指導者の養成と地域リーダーの育成

- 部活動の地域移行を見据えた、地域で活動する市民に向けての指導者講習会の促進

施策7 (5) 多様な連携を通じた啓発活動

- トップスポーツ選手等と次世代を担う子どもの交流の場を提供

施策10 (6) スポーツ活動における安全教育の推進

- 子どもへの安全・安心な指導を行うための教員に対する指導者研修会の実施

みらいイメージ

多様な主体が連携し合い、学校部活動の地域移行など地域で育む子どものスポーツが充実し、すべての子どもたちが自分にあったスタイルでそれぞれのスポーツ活動に取り組んでいます。



スポーツ施設等の適正な管理・整備と利便性向上の取組を通じて、より利用しやすい施設環境づくりを進めていくとともに、つくば市や地域の豊富なスポーツ資源を活用した取組を推進することで、つくば市だからこそ可能なつくばならではのスポーツ環境の構築を目指します。

今後5年間で特に推進していくこと

(関連する施策)

施策8 (1) スポーツ施設等の整備及び維持管理

- 市内の体育施設や公園の運動施設等のスポーツ施設の適正な管理
- 陸上競技場等スポーツ施設について、市民のニーズに合わせた整備
- スポーツ関連施設や、健康の保持増進のための施設等の適切な管理・運営

施策8 (2) バリアフリー化の推進(再掲)

- 施設のバリアフリー化の推進と適切な維持管理

施策8 (3) 施設の利便性向上

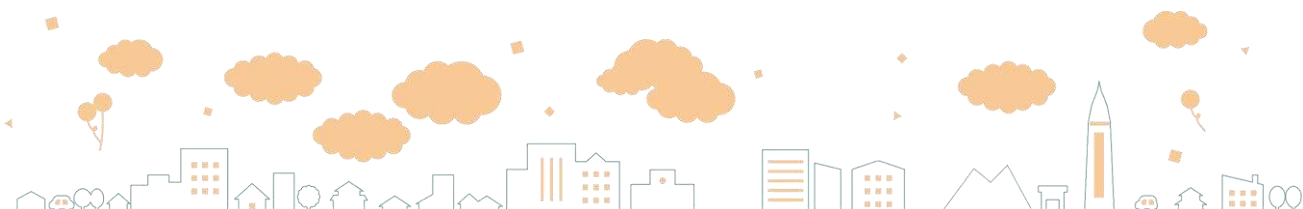
- 学校体育施設の運用・利用方法の見直しと地域への開放の推進
- スポーツ施設の利用に際してICTやIoTを活用したシステムを検討

施策9 (4) 地域特性をいかしたスポーツ環境の充実

- 「ランナーに愛されるまち」としてランニングに関する取組の周知
- つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用促進活動、レンタサイクル・シェアサイクルの実施
- 多様な主体と連携したスポーツ観戦などの機会提供

みらいイメージ

つくば市の様々なスポーツ資源をいかした質の高いスポーツ環境が実現し、だれもが身近な場所で様々なスタイルでスポーツ活動を楽しんだり観戦したりしています。





●スケートボード大会「WORLD SKATE JAPAN 茨城県支部大会」



●つくば霞ヶ浦りんりんロード



●つくばリレーカーニバル 2022 (つくば市共催事業)



第5章

計画の進行管理

第5章 計画の進行管理

5-1 計画の実施体制と進行管理

1 計画の実施体制

(1) 市内の連携体制の充実

本計画を着実に実施し、つくば市スポーツの振興を図るために、市民、つくば市、地域社会、地域スポーツ団体、学校、大学、研究機関など、各主体との連携・協働を推進します。また、国、茨城県とも連携を強化します。

(2) 庁内の連携の強化

多岐にわたるスポーツ課題の解消に向け、円滑に、より実効力を発揮して施策を進めていく上では庁内の連携が重要となることから、情報共有を図りながら関係部署の一層の連携強化を図ります。

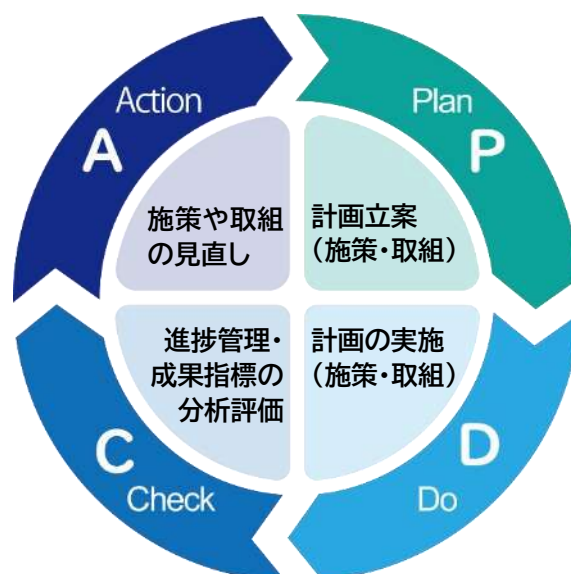
2 計画の進行管理

本計画の施策及び取組の実施においては、P D C A (Plan:計画、Do:実行、Check:評価、Action:改善) サイクルの考え方に基づいて適切な推進を図ります。

本計画の進行管理については、効果的な計画の実現に向けて、基本戦略ごとに設定した成果指標の達成状況等について数値を調査把握し、分析することで、計画の進捗状況の把握と評価を行います。また、達成状況に応じて取組の見直し検討等にもつなげます。

関係各課においては、毎年度の進行管理により施策の達成状況の把握と評価を行い、個別の具体的な取組については、事務事業評価との連携を図りながら、進捗を確認します。

評価結果については、「つくば市スポーツ推進審議会」に諮り、必要に応じて取組の見直しや改善、重点化を検討するなど、市民ニーズやつくば市を取り巻く社会情勢等の変化にも柔軟に対応しつつ、計画を進めます。



資料編

計画の策定経緯

■令和4年度（2022年度）

年月日	会議等	内容
令和4年(2022年) 6月29日	第1回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諮問 ・ 策定スケジュール等について
9月28日	第2回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2次つくば市スポーツ推進計画策定にあたって ・ スポーツ活動に関する調査の実施について ・ アンケート案の検討（成人、障害者、子ども）
11月1日 ～11月18日	つくば市スポーツ活動に関する調査 （子ども）	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査の実施 ・ 市内公立学校の小学5年生、中学2年生（義務教育学校8年生）、高校2年生 3,875人
11月1日 ～11月20日	つくば市スポーツ活動に関する調査 （成人） つくば市障害者スポーツ活動に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査の実施 ・ 成人：市内在住の18歳以上の方 4,010人 ・ 障害者：市内在住の障害者手帳を所持する7歳以上の方 1,010人
令和5年(2023年) 1月31日、 2月9日	グループミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前・事後アンケートの実施 ■ グループミーティングの実施 ・ 3テーマ 22団体、庁内6担当 ① スポーツを楽しむ ～身近で気軽にスポーツを楽しむためには～ ② 障害者スポーツの推進 ～障害のある方がスポーツを楽しむには～ ③ 子どものスポーツの振興 ～子どもたちのスポーツ環境を整えるためには～
3月15日	第3回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2次つくば市スポーツ推進計画策定について現状と課題 ・ つくば市スポーツ活動調査報告書について（成人、障害者、子ども）



● 答申書手交式



● つくば市スポーツ推進審議会

■令和5年度（2023年度）

年月日	会議等	内容
令和5年（2023年） 5月30日	第1回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画策定について 現状と課題② 計画の基本的な考え方（基本理念、基本目標、成果指標） スポーツ推進に向けた取組（施策の体系） eスポーツ勉強会（講師 松井崇氏）
6月22日 ～6月30日	各課調整①	<ul style="list-style-type: none"> 各課への新規施策等調査と主要事業確認調査の実施
7月21日	第2回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画について 計画の基本的な考え方②（基本理念、基本目標、成果指標） スポーツ推進に向けた取組②（施策の体系、施策）
8月16日 ～8月22日	各課調整②	<ul style="list-style-type: none"> 施策部分について各課照会
9月11日	第3回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画について 計画の基本的な考え方③（基本理念、概念図、基本目標、成果指標） スポーツ推進に向けた取組③（施策の体系、施策、3つの重点取組）
9月26日	教育委員会意見聴取 （「スポーツ基本法」第10条第2項）	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画（案）について
11月2日	第4回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画（案）について 概要版（案）について
11月29日	庁議	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画（案）について
12月8日 ～令和6年（2024年） 1月9日	パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画（案） 概要版（案） 意見 2名 3件
1月22日	第5回 つくば市スポーツ推進審議会	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント結果報告 第2次つくば市スポーツ推進計画について 概要版について 答申（案）
2月8日	答申	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画 答申
2月26日	庁議	<ul style="list-style-type: none"> 第2次つくば市スポーツ推進計画、概要版及びパブリックコメント結果報告

つくば市スポーツ推進審議会委員名簿

	氏名	所属	区分等	備考
1	酒井利信	筑波大学体育系教授	学識経験者	会長
2	齊藤まゆみ	筑波大学体育系教授	学識経験者	職務代理者
3	青戸克哉	霞ヶ浦医療センター 外科系診療部長	学識経験者	
4	片岡千恵	筑波大学体育系准教授	学識経験者	
5	萩原武久	(一社) つくば市スポーツ協会会長 つくば市理事 (スポーツ担当)	スポーツ団体の 代表者	
6	石黒澄子	(一社) つくば市スポーツ協会理事	スポーツ団体の 代表者	
7	富田竜夫	つくば市中学校体育連盟会長 (つくば市立大穂中学校校長)	スポーツ団体の 代表者	令和5年(2023年) 5月から
	宮本智雄	つくば市中学校体育連盟会長 (つくば市立高崎中学校校長)		令和5年(2023年) 3月まで
8	高野文男	つくば市議会議員 (市民経済委員会委員長)	市議会議員	令和5年(2023年) 1月から
	木村修寿	つくば市議会議員 (市民経済委員会委員長)		令和4年(2022年) 12月まで
9	木村一男	市民委員	市民委員	
10	木村 陸	市民委員	市民委員	
11	野村友香里	市民委員	市民委員	
12	根本祥代	福祉部長	関係行政機関の 職員	令和5年(2023年) 11月から
	大久保克己	市民部長		令和5年(2023年) 11月まで

	用語	解説
あ	ICT (Information and Communication Technology)	情報(information)や通信(communication)に関する(科学)技術 (technology)の総称のこと。
	IoT (Internet of Things)	「モノのインターネット」の意味で、これまでインターネットに接続されてきたパソコンやスマートフォンに加えて、自動車や家電など様々なモノがインターネットにつながるようになってきている概念のこと。
	アプリ	アプリケーションソフトウェアの略称で、特定の用途や目的のために設計されたソフトウェアのこと。
	eスポーツ	エレクトロニック・スポーツの略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称のこと。
	EBPM (Evidence-Based Policy Making)	エビデンス(合理的根拠)に基づく政策立案。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化した上でエビデンスに基づくものとする。
	Well-being (ウェルビーイング)	身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念のこと。
	運動普及推進員	健康づくりのための運動を地域で普及推進するボランティア資格のこと。運動普及推進員になるためには、運動普及推進員養成講座を受講する必要がある。
	SNS (Social networking service)	ソーシャルネットワーキングサービスの略で、登録した利用者同士が交流できるウェブサイト等の会員制サービスのこと。
	SDGs (持続可能な開発目標) (Sustainable Development Goals)	平成13年(2001年)に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された平成28年(2016年)から令和12年(2030年)までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」(leave no one behind)ことを誓っている。SDGsは開発途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものとなっており、我が国も本取組を積極的に推進している。
か	学校体育施設	本計画においては、学校施設のうち、体育館、グラウンド、武道場などの体育やスポーツ活動のために使用される施設のこと。
	稼働率	本計画における稼働率は、各スポーツ施設において利用可能な時間帯(コマ数)に対する実際に利用された時間(コマ数)の割合を算出している。
さ	障害者スポーツ	障害のある方が行うスポーツ活動の総称である。パラリンピックで行われるブラインドサッカー、ゴールボールや車いすバスケットボールなどの競技スポーツだけでなく、アダプテッド・スポーツとして障害の種類や程度に応じてルール等を工夫しているものや、ユニバーサル・スポーツとして、障害のある方のために考案されたものの、広く一般の人が楽しむことができるものまで、多岐にわたっている。
	シルバークラブ	交流を通じて親ばくを深める組織で、地域ごとに、おおむね60歳以上の方で自主的に組織されており、健康増進、社会奉仕、教養講座、研修旅行、レクリエーション活動等を行っている。
	新体力テスト	文部科学省が国民の体力・運動能力の現状を明らかにするために実施している「体力・運動能力調査」において、平成11年度(1999年度)から体力テストを全面的に見直して導入されたもの。
	スクリーンタイム	平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間のこと。
	スタートコーチ	スタートコーチ(スポーツ指導者基礎資格)は地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、学校運動部活動等において、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する者のこと。

	用語	解説
さ	スポーツ医・科学	スポーツにおける競技力の向上やスポーツを通じた健康づくりのために必要なメディカル、フィットネス、スキル、メンタル、栄養等に関する研究や学問のこと。
	スポーツ協会	日本スポーツ協会（J S P O）は、アマチュアスポーツの振興により、国民の体力向上とスポーツ精神の涵養を目的とする組織で、各競技団体と都道府県スポーツ協会の統合組織。スポーツの振興と指導者の育成、スポーツの機会と場の提供（国体や各種のスポーツ大会の開催）などの役割を担う。 つくば市スポーツ協会は、市民を対象とするスポーツ諸団体相互の緊密な協調連絡を図り、正しいスポーツの普及振興を通して、競技力の向上とスポーツ精神を養い、併せて市民の健康づくりの推進と体力向上に寄与することを目的として活動が行われている。
	スポーツ施設	本計画においては、「つくば市体育施設条例」に定める体育施設、「つくば市都市公園条例」に定める公園施設、学校施設の中の体育館等スポーツに関連する施設、その他の施設等で実際にスポーツ活動が行われている施設など、スポーツと関連がある施設のこと。
	スポーツ実施率	一定期間に一定回数のスポーツを実施した割合のこと。
	スポーツ少年団	日本スポーツ協会（J S P O）がスポーツを通じた青少年の健全育成を目的として事業を行っている団体のこと。日本スポーツ少年団、都道府県スポーツ少年団、市町村スポーツ少年団及び単位スポーツ少年団の4段階で構成され運営されている。つくば市スポーツ協会の構成組織として、スポーツ少年団がある。
	スポーツ振興会	つくば市スポーツ協会を構成する組織の1つ。スポーツ振興会は、大穂、豊里、谷田部、桜、筑波、荃崎の6支部から構成され、各支部で子どもから高齢者まで、地域住民を対象としたスポーツ大会・行事、スポーツ教室、スポーツ交流会などが行われている。
	スポーツ推進委員	「スポーツ基本法」第32条に基づき、市町村のスポーツの推進に係る体制を整備するために市町村から委嘱を受け、スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う者のこと。
	スポーツツーリズム	スポーツを「みる（観戦）」「する（楽しむ）」ための移動だけではなく、周辺の観光要素や、スポーツを「支える」人々との交流や地域連携も付加した旅行スタイルのこと。
	「する」「みる」「ささえる」「しる」スポーツ	【する】スポーツを実際に実践し、活動すること。スポーツをして楽しむこと。 【みる】スポーツの大会やイベントなどを見たり観戦したりすることでスポーツを楽しむこと。 【ささえる】スポーツ団体の運営やスポーツの指導などスポーツを支えるために行われる様々な活動のこと。 【しる】本計画では「する」、「みる」、「ささえる」ためにスポーツ文化やスポーツについて知ること。 実際に知る、見ることで、する、支えるきっかけにつながるなどそれぞれが相互にかかわりあう関係のこと。
	専門部会	つくば市スポーツ協会を構成する組織の1つ。社会人を対象とした競技種目毎の各専門部会がある。
総合型地域スポーツクラブ	身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、①子どもから高齢者まで（多世代）、②様々なスポーツを愛好する人々が（多目的）、③初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴をもち、地域住民により自主的・主体的に運営される公益性・地域性を備えたスポーツクラブのこと。	
た	ダイバーシティ&インクルージョン	ダイバーシティ（多様性）、インクルージョン（包括）の意味で、年齢や性別、国籍、学歴、特性、趣味嗜好、宗教などにとらわれない多種多様な人材が、互いに認め合い、自らの能力を最大限発揮し活躍できること。
	地域交流センター	市民の自主的な活動の促進を図り、豊かな活力ある地域社会の形成に資するために設置された施設。筑波、大穂、吉沼、豊里、谷田部、松代、二の宮、春日、島名、小野川、桜、栗原、竹園、並木、広岡、荃崎の16地域に設置されている。

	用語	解説
た	つくばカピオ	アリーナ、ホール、会議室から成る複合文化施設のこと。アリーナは、バスケットボール2面の広さに固定席1,036席の2階席を有し、各種室内スポーツや集会等に利用されている。
	DX (Digital Transformation)	元々はデジタル技術が浸透し、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる概念のことで、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。
	テレワーク	ICT(情報通信技術)を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。
	トレイルランニング	陸上競技の長距離走の一種であり、様々な種類の地形(砂地、土の道、林道、一人しか通り抜けられない森の小道、雪道等)や環境(山、森林、平原、砂漠等)で行われるスポーツのこと。
な	ナッジの理論	ナッジは「そっと後押しする」の意で、行動科学の知見の活用により、人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法のこと。
	日本スポーツ協会(JSPO)公認 スポーツ指導者	日本スポーツ協会(JSPO)及び加盟団体等が、公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者で、スポーツ医・科学の知識をいかし、スポーツを安全に、正しく、楽しく指導し、スポーツの本質的な素晴らしさを伝える指導者のこと。
	ニュースポーツ	20世紀後半以降に新しく考案されたスポーツで、勝ち負けにこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼としており、年齢や体力等にかかわらず簡単に楽しめるスポーツのこと。
	ノーマライゼーション	障害のある方が障害のない方と同等に生活し、共にいきいきと活動する社会を目指す理念のこと。
は	バリアフリー・ユニバーサルデザイン	バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア(障壁)に対処するとの考え方で、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方のこと。
	BMX (Bicycle Motocross)	バイシクルモトクロス(略)で、自転車競技の一種であり、またその競技で使われる自転車のこと。
	PDCAサイクル	計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)の4つのステップから成るサイクルで、継続的な業務改善や目標達成を実現するための戦略的フレームワークのこと。
	フィーチャー	何らかの対象を取り上げて強調し、注目させることを意味する言葉のこと。
	フォレストアドベンチャー・つくば	フランスを発祥とする、専用のハーネスを着用し、森の樹の上をわたっていく森林体験型アウトドアパークのこと。
	フットパス	イギリスを発祥とする、森林や田園地帯、古い街並み等地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小道のこと。
	ふれあいプラザ	市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯学習の活動を総合的に支援するために設置された施設のこと。
	フレイル	加齢に伴い筋力・認知機能等の心身の活力が低下し、要介護状態となる危険性が高くなった状態を指し、健康な状態と介護が必要な状態の中間のこと。
ら	ホストタウン	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機とした、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等を目的に参加国や地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体のこと。
	レンタサイクル・シェアサイクル	レンタサイクルは、有料の自転車貸出サービスで、つくば市ではBiViつくば1階(つくば駅前)観光案内所、つくバス北部シャトル筑波山口停留所、サイクルパークつくばの3か所で実施している。シェアサイクルは、つくば市では実証実験中の「つくチャリ」があり、スマートフォンの専用アプリを用いて、各地に配置されたサイクルポート(シェアサイクル貸出・返却場所)間を自由に移動できる有料の自転車貸出サービスのこと。

団体・法人等の名称の記載について

本計画では、各団体・法人等について略称を用いて記載しています。各団体等の正式名称については以下の通りです。

	正式名称	計画中表記
あ	一般社団法人シッティングスポーツ協会	シッティングスポーツ協会
	一般社団法人つくば市スポーツ協会	つくば市スポーツ協会、(一社)つくば市スポーツ協会
	一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドサンガイア
	医療法人社団筑波記念会筑波記念病院 つくばトータルヘルスプラザ	筑波記念病院つくばトータルヘルスプラザ
	大塚製薬株式会社	大塚製薬(株)
か	学校法人日本国際学園	日本国際学園大学 ※令和6年(2024年)4月より「筑波学院大学」から名称変更
	株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント	茨城ロボッツ
	株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー	鹿島アントラーズ
	株式会社カスミ	(株)カスミ
	株式会社常総エナジー	(株)常総エナジー
	株式会社 Z0Z0	(株)Z0Z0
	株式会社筑波銀行	(株)筑波銀行
	公益財団法人茨城県スポーツ協会	茨城県スポーツ協会
	公益財団法人日本スポーツ協会	日本スポーツ協会(J S P O)
	国立大学法人筑波技術大学	筑波技術大学
	国立大学法人筑波大学	筑波大学
	さ	関彰商事株式会社
社会福祉法人つくば市社会福祉協議会		つくば市社会福祉協議会
た	第一生命保険株式会社	第一生命保険(株)
	知的障害者スポーツ支援「スポーティア」	筑波大学スポーティア ※筑波大学のスポーツボランティアサークル
	つくば市レクリエーション協会	正式名称に同じ
	つくば市身体障害者協議会	正式名称に同じ
	東京海上日動火災保険株式会社	東京海上日動火災保険(株)
	東京ガス株式会社(東京瓦斯株式会社)	東京ガス(株)
	To Be Athlete Club	正式名称に同じ
	特定非営利活動法人茨城県ウォーキング協会	茨城県ウォーキング協会
	特定非営利活動法人つくばフットボールクラブ	NPO法人つくばフットボールクラブ、つくばFC
	特定非営利活動法人Next one.	NPO法人Next one.、Next one.
な	認定特定非営利活動法人日本スポーツアカデミー	認定NPO法人日本スポーツアカデミー、日本スポーツアカデミー
ま	明治安田生命保険相互会社	正式名称に同じ

第2次つくば市スポーツ推進計画

令和6年（2024年）3月

発行 つくば市市民部スポーツ振興課

〒305-8555

茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL:029-883-1111（代表）

FAX:029-828-6217

